

平成3年度（平成3年3月1日から平成4年2月29日まで）事業報告

平成3年度に行った事業のうち特記事項をあげると次のとおりである。

1. 「鉄と鋼」に現場技術をはじめとする鉄鋼技術およびその周辺技術を簡潔にまとめた記事「現場技術報告」を創設し、従来の「技術報告」を廃止した。
2. 和文会誌、欧文会誌、講演大会の各分科会の委員制度を分科会委員と専門委員の二重制とし、通常会議は分科会委員が処理する等、会議の合理化をはかった。
3. '91、'92年会員名簿を発行した。従来の内容に加え、国別、地域別、支部別、企業別会員欄を設けるなど利用しやすいように改めた。
4. 鉄鋼科学技術発展のための教育・育成活動の企画、推進を目的とした育成委員会を設立し新規事業の検討をはじめた。
5. 国際ステンレス鋼会議を6月10日～13日まで千葉で開催した。講演件数165件、参加者436名であった。
6. 第6回理工系学生のための研究所、製鉄所見学会を3月18～20、22日の4日間全国18会場で実施し、ほぼ昨年の843名が参加した。本会創立70周年記念事業会計による事業としてはこれが最後であり、平成4年度からは、一般会計の事業として継続することになった。
7. 特定基礎研究会に「鉄鋼の初期凝固研究部会」および「高純度Fe-Cr合金研究部会」の2部会を設置した。
8. 基礎研究会に「鉄鋼業における炭酸ガス抑制対策研究部会」「マイクロ組織センサー研究部会」を設置した。
9. 鉄鋼基礎共同研究会に「循環性元素分離部会」を設置した。
10. 大学における鉄鋼研究の振興と優れた学生の鉄鋼業への参集の支援を目的とした鉄鋼研究振興資金（5億4,350万円）の果実の運用を審議決定する鉄鋼研究振興助成金選考委員会を設立し、大学研究者からの研究助成テーマ応募91件について選考を行い、20件を選定した。
11. 鉄鋼技術情報センター運営委員会の報告にもとづき、鉄鋼技術情報センター事務局の合理化を実施するとともに、図書・資料室の所蔵雑誌および数値データ集の縮小整理、ならびにデポジットライブラリーの設置と対象誌の2/3の収集を行った。
12. 第1回ISO/TC67/SC5（油井管）国際会議を6月4日サンディエゴで開催、第17回ISO/TC17（鉄鋼）総会を11月19日～22日及び同SC12（薄板製品）、同SC20（鋼の出荷条件）各分科会会議を11月12日～16日、京都で開催した。

目 次

I 会 議

1. 総会 N319
2. 評議員会 N319
3. 理事会 N319
4. 委員長会議 N319
5. 次期役員候補選考委員会 N319
6. 名誉会員候補選考委員会 N319
7. 一般表彰選考委員会 N319
8. 特別表彰選考委員会 N319
9. 特別資金運営委員会 N319
10. 支部長会議 N319
11. 企画委員会 N319
 11. 1 会計分科会 N319
 11. 2 表彰奨励推薦分科会 N319
 11. 3 学生見学会実行分科会 N320
12. 編集委員会 N320
 12. 1 和文会誌分科会 N320
 12. 2 欧文会誌分科会 N320
 12. 3 講演大会分科会 N320
 12. 4 Materials Processing分科会 N320
 12. 5 機械翻訳検討小委員会 N320
13. 育成委員会 N320
 13. 1 企画小委員会 N320
 13. 2 技術講座小委員会 N320
 13. 3 鉄鋼工学セミナー小委員会 N320
 13. 4 日方学術振興交付金選考分科会 N320
 13. 5 戦後技術史調査小委員会 N320
14. 国際交流委員会 N321
15. 研究委員会 N321
 15. 1 石原・浅田研究助成金選考分科会 N321
 15. 2 研究テーマ小委員会 N321
 15. 3 研究環境実態調査小委員会 N321
 15. 4 将来研究課題小委員会 N321
 15. 5 海洋材料小委員会 N321
 15. 6 科研費研究分科会 N321
16. 鉄鋼研究振興助成金選考委員会 N321
17. 国際鉄鋼技術委員会 N321
18. 標準化委員会 N321
19. 鉄鋼標準試料委員会 N321
20. 鉄鋼技術情報センター運営委員会 N322
 20. 1 図書館小委員会 N322
 20. 2 プロシーディングス小委員会 N322
 20. 3 情報管理研究部会 N322
21. 鉄鋼 I S O 運営委員会 N322

II 会 員 N322

III 役員および常置委員

1. 理 事 N322
2. 監 事 N323
3. 評 議 員 N323
4. 支 部 長 N324
5. 常務委員 N324
6. 企画委員 N324
7. 編集委員 N324
8. 育成委員 N324
9. 国際交流委員 N325
10. 研究委員 N325
11. 鉄鋼研究振興助成金選考委員 N325
12. 国際鉄鋼技術委員 N325
13. 標準化委員 N325
14. 鉄鋼標準試料委員 N325
15. 鉄鋼技術情報センター運営委員 N325
16. 鉄鋼 I S O 運営委員 N325

IV 一般会計による事業

1. 刊行事業 N325
 1. 1 鉄と鋼 N325
 1. 2 ISIJ International N325
 1. 3 材料とプロセス N325
 1. 4 図書の刊行 N326
 1. 5 刊行物の分譲 N326
2. 講演大会事業 N326
 2. 1 講演大会 N326
 2. 2 特別講演会 N327
 2. 3 講演大会見学会 N327
3. 育成事業 N327
 3. 1 西山記念技術講座 N327
 3. 2 白石記念講座 N327
 3. 3 鉄鋼工学セミナー N327
 3. 4 学生見学会 N327
 3. 5 他学協会との共催、協賛、後援による事業 N327
4. 国際交流事業 N327
 4. 1 国際ステンレス鋼会議 N327
 4. 2 国際会議・二国間シンポジウム
準備状況 N328
 4. 3 その他の国際交流 N328
5. 技術調査・研究事業 N328
 5. 1 共同研究会 N328
 5. 2 特定基礎研究会 N331
 5. 3 基礎研究会 N332
 5. 4 鉄鋼基礎共同研究会 N332

5. 5	旧陸海軍鉄鋼技術調査委員会	N333		
5. 6	日本金属学会との共同研究	…N333		
6.	標準化事業	…N333		
6. 1	JIS原案作成等の国内標準化活動	N333		
6. 2	ISO国際会議等の標準化活動	N333		
7.	鉄鋼標準試料事業	…N333		
8.	技術情報事業	…N334		
8. 1	図書・資料事業	…N334		
8. 2	情報業務事業	…N334		
V. 特別会計による事業				
1.	特別資金会計による事業	…N334		
1. 1	表彰	…N334		
1. 2	湯川記念講演会の開催	…N336		
1. 3	石原・浅田研究助成金の交付	N336		
1. 4	日向方齋学術振興交付金	…N336		
1. 5	浅田記念文庫の寄贈	…N337		
1. 6	戦後技術史調査事業	…N337		
2.	ISO幹事国事業	…N337		
2. 1	ISO/TC17幹事国業務	…N337		
2. 2	ISO/TC17/SC 1 幹事国業務	…N337		
2. 3	ISO/TC67/SC 5 幹事国業務	…N338		
3.	その他補助金等会計による事業	…N338		
3. 1	日本圧力容器研究会議	…N338		
VI. 支 部 …… N339				
1. 事 業				
1. 1	北海道支部	…N339		
1. 2	東北支部	…N340		
1. 3	北陸支部	…N340		
1. 4	東海支部	…N341		
1. 5	関西支部	…N342		
1. 6	中国四国支部	…N343		
1. 7	九州支部	…N344		
2.	収支決算	…N345		
VII. 総務事項 …… N346				
VIII. 寄付金の受入れ …… N346				
IX. 平成3年度収支決算 …… N347				

I. 会 議

1. 総 会

第76回通常総会。H3. 4. 2、東京大学。

議 事

- (1) 平成2年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件—承認可決
- (2) 平成3年度事業計画ならびに収支予算の件—承認可決
- (3) 理事、監事ならびに評議員選挙の件—別記Ⅲのとおり当選就任

2. 評 議 員 会

・平成3年度第1回評議員会、H3. 7. 20、書面審議。

議 事

- (1) 小野、神崎、阪本理事候補の補欠選挙—当選就任
- ・平成3年度第2回評議員会、H4. 2. 21。
- 議 事
- (1) 平成3年度事業報告、収支決算ならびに財産目録
- (2) 平成4年度事業計画ならびに収支予算
- (3) 次期理事、監事ならびに評議員候補者推薦
- (4) 名誉会員推挙
- (5) 表彰規程

3. 理 事 会

8回開催。H3. 4. 2、3. 4. 3、3. 4. 24、3. 6. 14、3. 7. 26、3. 10. 2、3. 12. 17、H4. 2. 21。一般会務につき協議決定。

4. 委 員 長 会 議

2回開催。H3. 7. 19、11. 19。

鉄鋼協会のPR活動および予算のあり方について審議。鉄鋼協会事業の長期展望検討グループ設置。

5. 次 期 役 員 候 補 選 考 委 員 会

H4. 1. 20。次期理事、監事、評議員の選考。

6. 名 誉 会 員 候 補 選 考 委 員 会

3回開催。H3. 10. 2、3. 12. 17、H4. 1. 20。名誉会員の選考。

7. 一 般 表 彰 選 考 委 員 会

2回開催。H3. 7. 26、H4. 1. 20。
 本会表彰の受賞者の選考。

8. 特 別 表 彰 選 考 委 員 会

本年度開催なし。

9. 特 別 資 金 運 営 委 員 会

H4. 1. 20。表彰ならびに事業資金、渡辺義介記念資金・石原米太郎研究資金・西山弥太郎記念資金・湯川正夫記念資金・浅田長平記念資金・三島徳七記念資金・林達夫記念資金・白石元治郎記念資金・日向方齋学術振興資金・外島健吉記念資金・研究振興資金および鉄鋼研究振興資金のH3年度事業および決算案ならびにH4年度事業計画および予算案を審議。

なお、H3年度末における石原米太郎研究資金の残額を表彰ならびに事業資金へ繰入れ統合することに決定。

10. 支 部 長 会 議

H3. 4. 3、H3. 10. 1。支部組織運営のあり方、支部活動の活性化、運営資金、支部規則、関東支部設置等について本部と支部との意見交換。

11. 企 画 委 員 会 (委員長：北村 卓夫)

6回開催。H3. 6. 6、3. 7. 16、3. 9. 18、3. 12. 11、4. 1. 24、4. 2. 12。事業運営上の諸計画、予算、国際交流、他団体からの依頼による表彰奨励の推薦、鉄鋼研究振興資金などについて協議。
 なお、H3. 3. 26、H3. 11. 29、H4. 2. 5庶務担当理事による諸規程の審議。

11. 1 会 計 分 科 会 (主査：山田 孝雄)

8回。予算、決算、研究補助金の処理など経費に関する事項を審議。H4年度から実施する予算体系を確立。

11. 2 表 彰 奨 励 推 薦 分 科 会 (主査：H3. 7月まで三好 俊吉、8月から阪本 英一)

7回開催。他団体からの依頼による表彰奨励候補の選考。なお、本年度受賞したものは、下記のとおり。
 第22回 石川賞

住友金属工業㈱ 「戦略的統合システムの構築—鋼管事業の革新へ向けて」

第26回 日 本 塑 性 加 工 学 会 賞 (H3年度)

(1) 会 田 技 術 賞 川崎製鉄㈱

「T F P製造技術の開発」

(2) 新 進 賞 住友金属工業㈱

「一般化平面歪変形の応用によるマンドレルミル圧延のシミュレーション」

第23回 市 村 産 業 賞 (H2年度)

新日本製鐵㈱ 「インラインによる高深度、高強度熱処理レール開発」

N K K 「高炉制御技術の開発による低シリコン銑の製造」

第38回 大 河 内 賞 (H3年度)

(1) 大 河 内 記 念 生 産 賞 川崎製鉄㈱

「高温連続焼鈍法による自動車用超極低炭素鋼板の開発」

新日本製鐵㈱

「非調質型高級油井用電縫鋼管製

造技術の開発」

大河内記念技術賞 日本鋼管株

「耐震性能に優れた建築構造用厚肉高張力鋼の製造技術の開発」

11. 3 学生見学会実行分科会

(主査：羽田野道春(第6回)、岡田 健(第7回))

第6回見学会を14学会の協賛を得て3月18、19、20、22日の4日間に全国18会場で実施、ほぼ昨年並の843名が参加。

また、H4年3月16、17、18、19日に第7回見学会を実施すべく実行分科会を3回開催し、パンフレット、ポスターを作成、各大学の先生・学生諸君にPR等を実施。

12. 編集委員会(編集委員長：南雲道彦→佐野信雄)

6回開催。

- (1) 各分科会を分科会委員と分科会専門委員の2重構成に変更。分科会委員は各分科会の全体業務のため毎月1回会合。専門委員会は(年2回程度会議に参加)論文の査読、依頼記事の推薦等が主な業務。「鉄と鋼」のISIJ情報ネットワーク欄強化のため、会社社報担当者を専門委員として7人委嘱。
- (2) H4、1月号より鉄と鋼に「現場技術報告」(オフセット4頁以内/件)欄の新設。
- (3) H5、1月号より「鉄と鋼」を、H5春季講演大会より「材料とプロセス」をA4判にすることを決定、それに伴う両誌の表紙デザインを公募。
- (4) 「鉄と鋼」ISIJ情報ネットワークの編集に広く会員に携わってもらうこととし、年3回支部に編集を委託することを決定。
- (5) 萌芽・境界領域部門の強化のため、現在講演大会活動が中心になっているMaterials Processing分科会を独立した委員会とするよう理事会に提案。

12. 1 和文会誌分科会(主査：雀部実→木原諄二)

11回(8月を除く)開催、会誌「鉄と鋼」の編集、平成4年度の製鉄特集号の企画。特に依頼記事で講義記事の強化を決定。他ISIJ情報ネットワーク強化のため迎えた会社報担当の専門委員に、情報ネットワーク記事のモニターとしての役割を依頼。

12. 2 欧文会誌分科会(主査：菊池 實)

11回(8月を除く)開催、欧文会誌ISIJ Internationalの編集と平成4年度の特集号として①Recent Advances in Modelling on Microstructural Evaluation and Properties of Steels(No.3)、②Melting, Refining and Solidification of Rare Metals and Their Alloys, and Superalloys(No.5)、③High Performance Composite Materials-Processing, Properties, and Application(No.7)、④Molten Slags and Fluxes('93, No.1)を決定。

12. 3 講演大会分科会(主査：小野 陽一)

分科会4回、幹事会2回開催。第121回(春季)、第122回(秋季)講演大会の企画、実施、第123回(H4

秋季)、第124回(同秋季)講演大会の討論会テーマの決定。「材料とプロセス」Vol.4、No.1~No.6を発行。

●鋼構造WG(リーダー：坂本 傑)4回開催、春秋講演大会における講演、依頼講演の企画、実施。

12. 4 Materials Processing分科会(主査：吉田豊信)

6回開催。講演大会における討論会、依頼講演者の企画、今後の活動範囲拡大等について審議。

12. 5 機械翻訳検討小委員会(小委員長：新宮秀夫)

平成2年度約5000語の辞書作成に引続き、各分野の論文の機械翻訳テストと併行して一層の辞書の充実。

13. 育成委員会(委員長：牛山 博美)

準備会2回、委員会2回開催。育成委員会の構成および活動方針について検討。準備会では既存の技術講座、鉄鋼工学セミナー等については一層強力で推進するとともに、企画小委員会を新設し新規事業の企画推進をはかる。委員会では企画小委員会から提案された事業案中より、H4年度事業として次の2つを決定①高等学校理数系教諭の鉄鋼工場(研究所)見学と鉄鋼技術者との懇談を目的とした協議会の設置、②協会、大学、企業で蓄積されている知的財産体系化による図書の刊行。

13. 1 企画小委員会(小委員長：荒牧 透)

3回開催。新規事業の検討に当り、狙を①鉄鋼プレゼンス育成、②人材育成、③技術育成、対象を①社会(一般、中高生)、②大学、③鉄鋼企業とし、その中で(イ)学校での「技術」教育の推進、(ロ)大学と企業の新しい連携、(ハ)国際化、(ニ)知的財産の体系化を骨子として検討し、次の事業を育成委員会の課題として提案。

①懸賞論文募集、②高等学校理数系教諭の工場見学と鉄鋼技術者との懇談会、③「新版 鉄鋼製造法」の出版、④国際化への対応-Post Doctoral Fellowship制度の設置、⑤大学と企業の新しい連携

13. 2 技術講座小委員会(小委員長：徳永 洋一)

3回開催。西山記念技術講座3テーマ4回。白石記念講座2テーマ2回開催すると同時に、平成4年度のテーマを次の通り決定。

(1)西山記念技術講座

第143・144回「最近の高純度鋼溶製技術の進歩」

第145回「鉄鋼業における耐火物技術の展望」

(2)白石記念講座

第23回「資源リサイクルの現状と将来」

13. 3 鉄鋼工学セミナー小委員会

(小委員長：南雲 道彦)

7回開催。第17回鉄鋼工学セミナーの実施ならびに第18回(平成4年度)の計画。

13. 4 日向方斎学術振興交付金選考分科会

(主査：増子 昇)

2回開催。第16、17回の学術振興交付金対象者の選考を行い、9件を選定。

13. 5 戦後技術史調査小委員会

(小委員長：田畑新太郎)

小委員会1回。幹事会5回開催。日本鉄鋼業の戦後における技術展開を調査し、粗稿を作成。

14. 国際交流委員会

(委員長：木村 達也 H3.8以降 富浦 梓)

3回開催。主な討議内容

- 1) 国際会議開催の決定
 - (1) 製鉄分野国際会議 H6年
 - (2) 製鋼分野国際会議 H8年
- 2) 国際会議組織委員長選任ならびに組織委員会設置
 - (1) 製鉄分野(科学技術)国際会議 H6年
委員長 徳田 昌則
 - (2) 材料磁気プロセス国際会議 H6年
委員長 浅井 滋生
- 3) 二国間シンポジウム開催決定
 - (1) 第8回 日本ドイツセミナー H5年
仙台(当初H3年予定)
- 4) 国際会議、小規模国際会議、二国間シンポジウム開催計画の検討
- 5) 国外関係学協会との学術・技術交流の推進

15. 研究委員会 (委員長：山口 正治)

隔月で6回開催。

「金属間化合物共同研究会」、「研究ネットワーク連合委員会」への参画を決め、それぞれ代表委員として山口研究委員長および手塚委員を推薦。

鉄鋼研究振興助成金の新規交付に伴い、H4年度から石原・浅田研究助成金の交付対象を36才未満から30才未満へ、交付件数を8件以内から3件以内へ変更し、「研究テーマの募集」の枠内で研究委員会が選考。

金属関係学協会連絡委員会の事務局の日本金属学会への移管に伴い連絡委員会委員の本会からの選出を協会の議決により行うこととし、研究委員会の下に「科研費研究分科会」を設置して科研費研究の体制を整備。

15. 1 石原・浅田研究助成金選考分科会

(主査：山口 正治)

第20回の募集の結果、9件の応募があり、選考の後、製練関係3件、材料・加工・その他関係3件に助成金を交付。

15. 2 研究テーマ小委員会 (小委員長：小指 軍夫)

3回開催。H4年度実施の研究テーマの公募と選定応募件数：42件、選定件数：鉄鋼基礎共同研究会候補；2件、特定基礎研究会；6件(→2件に統合)、特定基礎研究会単独研究依頼；3件、基礎研究会；4件(→2件に統合)、大規模研究プロジェクト；1件(研究テーマ名、研究者名は会誌1月号参照)ならびにH5年度実施の研究テーマ公募用の主要技術課題の見直し整理。

15. 3 研究環境実態調査小委員会

1回開催。調査結果を「小委員会報告書」にまとめ刊行。アンケート協力先に配布。

15. 4 将来研究課題小委員会 (小委員長：徳田 昌

則)

魅力的研究テーマの探索、鉄鋼分野の研究の将来展望などの研究調査を目的として、本会第135回西山記念技術講座「21世紀の鉄鋼業」等を出発点に議論を進め、H3年5回開催。

15. 5 海洋材料小委員会

(委員長：楠原 祐司、H4.1月以降、小川 幸文)

2回開催。関係7学協会共催の海洋工学連絡会海洋工学パネルへの対応方針を審議。

15. 6 科研費研究分科会 (主査：山口 正治)

科研費研究の全般について常に調査研究し、適切な提言を行うことを目的に、H3.6月に設置。

2回開催。金属関係学協会連絡委員会委員および審査委員候補者を選出。

16. 鉄鋼研究振興助成金選考委員会

大学における鉄鋼研究の活性化および鉄鋼研究者の育成のため、日本鉄鋼連盟運営委員会会社15社からの5億円ならびに鉄鋼研究振興資金設置の趣旨にご賛同の会社からの寄付による5億4350万円の基金より生ずる果実を大学関係の研究者に助成金として交付するため、H3.2月に設置。

2回開催。H4年度から実施することとし、募集および選考要領決定。助成テーマ応募91件から20件を選定(助成テーマ名、研究者名は「鉄と鋼」1月号参照)。

H4年度研究費助成総額は3,700万円

17. 国際鉄鋼技術委員会 (委員長：富浦 梓)

3回開催。

- 1) 第23回IISI技術委員会定例会議(ストックホルム)の出席報告
- 2) 第25回IISI総会(モントリオール)の出席報告 H3.5月 歩留まり調査に関するスペシャルスタディWGを日本で開催。
- 3) H4.10月開催予定の東京年次総会におけるパネル討議テーマの検討および新規スペシャルスタディテーマ、技術交流セッションテーマについて討議。

18. 標準化委員会 (委員長：荒木 透)

普通鋼分科会等のJIS等国内標準化活動関係24回、ISO鉄鋼部会26回、ISO/JIS整合化WG等のWG会議が15回。計65回開催。

SI単位移行実施小委員会は、H3年始めよりJIS鉄鋼規格の単位がSI単位に移行したので、また外注化検討WGは業務完了によりそれぞれ解散。新たにSI単位小委員会を発足。

19. 鉄鋼標準試料委員会 (委員長：佐伯 正夫)

本委員会1回および運営部会4回開催。

需要家のニーズに沿った標準試料の更新及び将来のニーズに即した新製品の開発、事業の効率化並びに国際化に対応した事業運営に関する審議。

20. 鉄鋼技術情報センター運営委員会

(委員長：中川 龍一)

2 回開催。

デポジットライブラリーの設置。国際会議プロシーディングスの収集強化(収集量従来の3倍増)、JICSTへの協力(従来の協力状況の継続)および事務局の改組を骨子とした報告をH3年度第4回理事会(6月14日)に報告。

20. 1 図書館小委員会(小委員長：宮田 隆司)

4 回開催。

図書室サービスの強化方針およびレイアウト変更案を決定。

20. 2 プロシーディングス小委員会(小委員長：鈴木 正敏)

2 回開催。

国際会議プロシーディングスの収集の強化および利用について検討。

30. 3 情報管理研究部会(部会長：梅田 高照)

各社に於ける技術情報管理体制についてのシンポジウム(3月開催)および国会図書館の見学会を開催。

21. 鉄鋼ISO運営委員会(委員長：山本 全作)

3 回開催し、ISO事務局の事業計画、予算・決算を中心に幹事国業務の基本事項について審議。

1) 活動報告会の開催

ISO/TC17、TC17/SC1およびTC67/SC5幹事国業務の支援41社に対する活動報告会を2月に開催。

2) TC17諮問部会

3 回開催し、TC17総会議題の検討を中心に答申。

3) TC17総会組織委員会

2 回開催。国際会議場の設定、歓迎パーティー・観光ツアー等行事および日本側出庫メンバー・ホスト役等についての検討、総会開催費用の決算の報告。

4) SC1諮問部会の開催

4 回開催し、規格案件の作成、事務局提案等について諮問。

5) 第14回SC1国際会議準備会の開催

1992年6月に向けて、SC1議長・幹事、国内コンピューターをメンバーとした準備会を6回開催。

6) TC67/SC5諮問部会

7 回開催し、第1回TC67/SC5会議での討議資料及び第1回WG1会議へ提出の日本コメントについて討議。

II. 会 員

1. 名誉会員

八木靖浩、Sven G. EketorpをH3年度総会において推挙した。

岩村英郎君、石原重利君、Elliott, J. F.君、Schenck, H. R.君、河西健一君 逝去

2. 会員の異動

	名誉	賛助	維持	外国	正	学生	計
平成3年2月28日現在	65	7	211	618	9,164	182	10,247
入 会	1		6	103	677	92	879
転 格				-19	-30	-83	-132
	1			31	99	1	132
退 会			-1	-64	-787	-13	-865
死亡退会	-5				-20		-25
平成4年2月29日現在	62	7	216	669	9,103	179	10,236

III. 役員および常置委員

1. 理 事

H3. 4. 2 第76回通常総会において任期満了理事の改選を行い、次の者当選就任。

(任期2年)

牛山 博美	小口 醇	川上 正博
川田 敏郎	菊池 實	木村 達也
倉重 輝明	佐野 信雄	高石 昭吾
田口喜代美	谷野 満	中江 秀雄
永井 親久	山口 正治	横川 敏雄

なお、留任の理事は以下のとおり。

池高 聖	及川 洪	小野 陽一
川口 三郎	北村 卓夫	坂倉 昭
佐野 正道	島田 仁	瀬戸 浩蔵
中島 一郎	増子 昇	三好 俊吉
森田善一郎	山田 孝雄	横田 孝三

H3. 4. 2 理事会において、互選により次のとおり当選就任。

会 長	森田善一郎
副 会 長	増子 昇 永井 親久
専務理事	島田 仁

なお、理事の職務分掌は次表のとおり。

○委員長 △主査

		留 任	新 任
会 副 専	長 務 理 事	森田善一郎 増子 昇仁 島田 仁	永井 親久
企 画 委 員 会	企 画	○ 北村 卓夫 (兼)坂倉 昭蔵 瀬戸 浩三 横田 孝三 佐野 正道 中島 一郎	倉重 輝明 川田 敏郎 牛山 博美 (兼)佐野 信雄 谷野 満
	庶 務	△ 三好 俊吉 池高 聖	川上 正博 高石 昭吾
	会 計	△ 山田 孝雄 川口 三郎	田口喜代美
編 集		小野 陽一 及川 洪 (兼)佐野 正道	○ 佐野 信雄 (兼)倉重 輝明 菊池 實 中江 秀雄 小口 醇
	研 究	(兼)北村 卓夫 坂倉 昭	○ 山口 正治 木村 達也 横川 敏雄 (兼)小口 醇
育 成		(兼)池高 聖	○(兼)牛山博美
国 際 交 流			○(兼)木村達也

- H 3. 7. 15 理事辞任 木村 達也
- H 3. 7. 20 理事就任 神崎 昌久
- H 3. 7. 17 理事辞任 三好 俊吉
- H 3. 7. 20 理事就任 阪本 英一
- H 3. 7. 5 理事辞任 横田 孝三
- H 3. 7. 20 理事就任 小野 定雄

神崎理事は育成、阪本理事は庶務、小野理事は企画を分掌。

2. 監 事

H 3. 4. 2 第76回通常総会において任期満了監事の改選を行い、雀部 実 当选就任。

なお、留任は西崎 允。

3. 評 議 員

H 3. 4. 2 第76回通常総会において任期満了の評議員の改選を行い、次の者当选就任。

(任期 2 年 125名)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 浅野 鋼一 | 新井 宏一 | 荒木 孝雄 | 池島 俊雄 |
| 石井 邦宜 | 石川 明 | 石田 二郎 | 石野 亨 |
| 泉 久司 | 磯 平一郎 | 一瀬 英爾 | 伊藤亀太郎 |
| 伊藤 孝 | 伊藤 雅治 | 伊藤 慶典 | 井上 浩行 |
| 今井勇之進 | 岩崎有一郎 | 岩村 英郎 | 上田 仁 |
| 上杉 年一 | 梅田 高照 | 大岡 耕之 | 大須賀立美 |
| 大谷 正康 | 大橋 延夫 | 大森 康男 | 大矢 龍夫 |

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 岡 宗雄 | 岡本 平 | 冲信 春男 | 萩野 和己 |
| 小田 助男 | 小原 信二 | 小野 勝敏 | 鍵本 潔 |
| 河西 健一 | 加藤 榮一 | 金山 千治 | 川上平次郎 |
| 川名 昌志 | 川本 信彦 | 岸田 壽夫 | 君嶋 英彦 |
| 木村 宏 | 京極 哲朗 | 草川 隆次 | 熊谷 直彦 |
| 栗田 満信 | 小島 浩 | 權藤 永 | 齋藤 恒夫 |
| 齋藤 好弘 | 坂尾 弘 | 佐久間健人 | 佐藤 忠雄 |
| 佐野 幸吉 | 志岐 守哉 | 品川 丞 | 新宮 秀夫 |
| 新宮 康男 | 杉本 孝一 | 鈴木 朝夫 | 鈴木 禎一 |
| 住友 元夫 | 高梨 省吾 | 高橋 忠義 | 竹下 勅三 |
| 田中 駿一 | 田中 實 | 田中 良平 | 田畑新太郎 |
| 玉本 茂 | 塚田 尚史 | 塚田 浩 | 塚本富士夫 |
| 瀧崎 忍 | 徳田 昌則 | 豊田 茂 | 堂山 昌男 |
| 土手 彬 | 中川 一 | 中川 龍一 | 中村 為昭 |
| 中村 泰 | 南雲 道彦 | 奈古屋嘉茂 | 行方 二郎 |
| 新居 和嘉 | 西澤 一彦 | 西島 敏 | 西八条 實 |
| 布村 成具 | 萩原 康彦 | 長谷川義彦 | 羽田野道春 |
| 蜂谷 整生 | 羽鳥 幸男 | 浜中 全美 | 林 主税 |
| 林 安德 | 原田 利夫 | 久松 敬弘 | 深見 泰三 |
| 福田 健二 | 古川 敬 | 古田 徳昌 | 不破 祐 |
| 堀川 一男 | 前河 宏昌 | 牧 正志 | 松野 浩二 |
| 丸橋 茂昭 | 三田 勝茂 | 三井 太佳 | 宮脇 芳治 |
| 毛利 良一 | 森 克巳 | 森 勉 | 森 禮次郎 |
| 山中 卓 | 山本 全作 | 横井 信司 | 吉崎 鴻造 |
| 米倉 功 | | | |

(任期 1 年 4 名)

- 岡田 雅年 加藤 健三 白松 爾郎 森 一美

なお、留任の評議員は下記のとおり。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 相川賢太郎 | 青井 舒一 | 浅井 滋生 | 朝位 義照 |
| 足立原明文 | 阿部 芳平 | 荒木 修 | 荒木 透 |
| 伊木 常世 | 池見 恒夫 | 石黒 嘉人 | 石原 重利 |
| 逸見 晃典 | 井上 正文 | 井上 道雄 | 岩井 彦哉 |
| 岩城 正保 | 岩崎 茂夫 | 植田 守昭 | 上村 眞彦 |
| 大中 逸雄 | 大庭 浩 | 大森 正男 | 大和田国男 |
| 小倉 貞一 | 甲斐 幹 | 笠原 美三 | 梶井 貞夫 |
| 梶原 太吉 | 片岡 修 | 片田 哲也 | 加藤 健 |
| 神谷 春樹 | 川上 哲郎 | 川合 保治 | 川崎文一郎 |
| 神崎 昌久 | 北西 碩 | 北村 恒夫 | 木原 諄二 |
| 國武 隼人 | 久能 一郎 | 久保寺治朗 | 久米 豊 |
| 栗栖 敬 | 栗原 康 | 甲谷 知勝 | 河野 拓夫 |
| 小林 和三 | 小林佐三郎 | 近藤 嘉一 | 佐伯 修 |
| 佐伯 達夫 | 三枝 誠 | 阪本 英一 | 作井 誠太 |
| 佐藤 教男 | 三宮 章博 | 鈴木三千彦 | 相馬 胤和 |
| 副島 利行 | 高村 仁一 | 竹内 肇 | 龍野 富雄 |
| 田中 邦三 | 田中 紘一 | 田中 義巳 | 館 充 |
| 館野 万吉 | 玉置 正和 | 田山 昭 | 長 隆郎 |
| 辻川 茂男 | 徳永 洋一 | 戸田 健三 | 富浦 梓 |
| 飛山 一男 | 永井 潤 | 中村 正久 | 中山 豊 |
| 新美 格 | 西澤 泰二 | 根本 実 | 橋口 隆吉 |
| 速水 優 | 原 貞夫 | 萬谷 志郎 | 日渡 惺朗 |
| 弘田 昇 | 福岡 利和 | 藤井 義弘 | 藤本 一郎 |
| 舟知 明 | 古林 英一 | 古谷 尚 | 細井 祐三 |

第77回通常総会報告

細木 繁郎 堀田 正之 本田 忠敏 増本 健
 松下 幸雄 松田 常美 松原 博義 美坂 佳助
 三島 良績 三野 重和 宮崎 亨 宮下 芳雄
 向井 楠宏 森 甲一 森 省二 盛 利貞
 諸橋 晋六 八木 直彦 八木 靖浩 安江 幹
 柳澤 治明 柳澤 忠昭 山鹿 素雄 山城 彬成
 山田 浩蔵

評議員 金山 千治君 H 3. 4. 1 辞任
 岩村 英郎君 H 3. 5. 7 逝去
 石原 重利君 H 3. 7. 27 逝去
 前河 宏昌君 H 3. 10. 17 逝去
 河西 健一君 H 4. 2. 16 逝去

4. 支 部 長

支 部	退 任	新 任	交替年月日 (理事会承認)
北 海 道	二川 哲雄	早稻田 孝	H 3. 7. 26
東 海	宮田 満	沖 猛雄	H 3. 4. 3
関 西	玉本 茂	浅野 鋼一	H 3. 4. 3
中国四国	古谷 尚	木村 達也	H 3. 4. 3

5. 常 務 委 員

H 3. 4. 3 委嘱 木原 諄二
 H 3. 6. 14 委嘱 中川 龍一、山本 全作
 H 3. 8. 1 委嘱 富浦 梓

6. 企 画 委 員

H 3. 4. 3 委嘱 伊藤 慶典、荒牧 透
 H 3. 4. 15 解嘱 水野 実
 H 3. 4. 28 解嘱 湯浅 悟郎

7. 編 集 委 員

(1) 編集委員会

H 3. 6. 24 解嘱 溝口 庄三 委嘱 梶岡 博幸
 H 3. 8. 9 解嘱 大谷 泰夫 委嘱 丸川 雄浄

(2) 和文会誌分科会

H 3. 8. 9 解嘱
 石黒 徹、岩田 英夫、遠藤 孝雄、大河内春乃
 大中 逸雄、片山 裕之、金子 智、河井 良彦
 栗林 一彦、高嶋 修嗣、高城 重彰、田口 整司
 田中 紘一、田村 至、長谷川守弘、藤井 徹也
 松尾 孝、松尾 亨、三吉 康彦、八木順一郎

H 3. 8. 9 委嘱

(分科会幹事) 肥田 行博

(分科会委員)

小豆島 明、石川 圭介、大八木八七、河野 輝雄
 齊藤 良行、鈴木 俊夫、牧 正志

(専門委員)

天野 虔一、有馬 孝、井口 泰孝、板谷 宏
 伊藤 邦夫、植松 美博、岡田 康孝、岡本健太郎

小川 洋之、小野 昭紘、小林 俊郎、酒井 拓
 桜谷 敏和、新谷 紀雄、高谷 幸司、高橋 謙治
 高橋 稔彦、竹之内朋夫、谷口 政行、西村 孝
 藤田 米章、藤原 最仁、古川 武、増山不二光
 三島 良直、安田 一美、安中 弘行、若野 茂

H 3. 12. 3 委嘱

(専門委員)

佐藤 永男、田畑 康則、辻 邦博、永井 利彦
 古館 秀樹、三木喜代春、山下 勝義

(3) 欧文会誌分科会

H 3. 8. 9 解嘱

一瀬 英爾、岡本 篤樹、加藤 雅治、坂輪 光弘
 佐藤 廣士、谷口 尚司、丸山 公一

H 3. 8. 9 委嘱

(分科会委員)

榎本 正人、落合 征雄、水渡 英昭、長谷川 正
 (専門委員)

上島 良之、梅本 実、大北 智良、菊池 淳
 柴田 浩司、反町 健一、田村 健二、徳重 裕之
 中田 正之、中山 武典、長井 寿、森 勉
 八木順一郎

(4) 講演大会分科会

H 3. 8. 9 解嘱

石黒 徹、大河内春乃、佐藤 廣士、城田 良康
 三吉 康彦、山岡 秀行

H 3. 8. 9 委嘱

小豆島 明、伊藤 邦夫、大八木八七、岡本健太郎
 齊藤 良行、堺 裕彦、坂本 傑、坂本 隆秀
 清水 信義、田中 泰彦、寺田 雄一、広川吉之助
 藤田 米章、松尾 孝、松尾 亨、松本 洋
 宮原 忍、山懸 千里、湯浅 悟郎

H 3. 10. 29 解嘱

湯浅 悟郎

H 3. 11. 21 委嘱

(専門委員)

天野 虔一、板谷 宏、岡田 康孝、小川 洋之
 小野 昭紘、酒井 拓、鷺山 勝、鈴木 俊夫
 高谷 幸司、竹之内朋夫、友田 陽、平澤 政広
 古川 武、松岡 滋樹、村山 武昭、茂木 徹一
 安田 一美、若野 茂

(5) 鋼構造 Working Group

H 3. 4. 9 委嘱 三木 千尋

H 3. 8. 9 解嘱 青木 博文、今野 和近

委嘱 宮尾 俊明

(6) Materials Processing分科会

H 3. 8. 9 解嘱 芦田 喜郎、広橋 光司

委嘱 西原 公、西村 孝

8. 育 成 委 員

(1) 育成委員会

H 3. 8. 12 委嘱

荒牧 透、井口 泰孝、今井 卓雄、遠藤 孝雄

奥村 寛、木寺 淳、佐久間健人、佐藤 紀雄
寺西 洋志、南雲 道彦、羽田野道春、増子 昇

(2)技術講座小委員会

H 3. 8. 15 解囑 海老沢 勉、鈴木 隆夫
委囑 渡辺 馨、西岡 邦彦、榊井 明
H 3. 8. 27 委囑 青野 照彦
H 3. 10. 18 解囑 久我 正昭 委囑 加藤 雅典
H 3. 11. 28 解囑 青野 照彦 委囑 石黒 研

(3)鉄鋼工学セミナー小委員会

H 3. 9. 3 委囑 辻川 茂男、橋口 耕一
H 3. 11. 14 解囑 菊池 實、須藤 忠三

9. 国際交流委員

H 3. 7. 26 委員長 解囑 木村 達也
委囑 富浦 梓
H 3. 9. 4 解囑 雀部 実 委囑 川上 正博
H 3. 12. 17 解囑 寺田 修 委囑 那波 泰行

10. 研究委員

H 3. 4. 3 委囑 佐久間健人
H 3. 7. 26 委囑 斎藤 忠 解囑 徳田 昌則
H 3. 8. 9 委囑 手塚 誠 解囑 小野 武

11. 鉄鋼研究振興助成金選考委員

H 3. 3. 15 委囑
井上 泰、小指 軍夫、中西 恭二、羽田野道春
斎藤 忠、星野 和夫、権藤 永、松原 博義
小倉 貞一、井上 正文、富安維一郎、磯部 晋
近藤 嘉一、高石 昭吾

12. 国際鉄鋼技術委員

H 3. 8. 1 解囑 森 省二 委囑 中村 和生
H 3. 8. 6 解囑 木村 達也 委囑 富浦 梓
H 3. 8. 21 解囑 大橋 延夫 委囑 中西 恭二
H 3. 8. 29 解囑 伊藤 雅治 委囑 藤原 淳二

13. 標準化委員

H 3. 4. 1 解囑 池田 要、高橋 保
委囑 服部 幹雄、大磯 義和
H 3. 7. 5 解囑 藤原 俊朗 委囑 中澤 吉
H 3. 7. 11 解囑 丸山 英紀 委囑 古川 精
H 3. 7. 23 解囑 樋渡 健明 委囑 光武 紀芳
H 3. 9. 17 解囑 田中 明広 委囑 伊藤 元清

14. 鉄鋼標準試料委員

H 3. 4. 12 解囑 塚田 鋼二 委囑 船曳 佳弘
H 3. 12. 18 解囑 高瀬 信男 委囑 清谷 修一

15. 鉄鋼技術情報センター運営委員

H 3. 8. 27 解囑
中川 龍一、今來 俊郎、梅田 高照、黒崎 正夫
小林 和雄、近藤 嘉一、斎藤 汎、坂 公恭
雀部 実、島田 仁、鈴木 繁、鈴木 正敏
須田 興与、利根川圭一郎、中澤 吉、布村 成具
三田村外喜男、宮田 隆司、宮地 昭夫、森田 有彦
門司 利夫、矢島 忠正
H 3. 8. 27 委囑
中川 龍一、今來 俊郎、梅田 高照、黒崎 正夫
小林 和雄、近藤 嘉一、斎藤 汎、坂 公恭
雀部 実、島田 仁、鈴木 繁、鈴木 武和
鈴木 正敏、竹村 裕、利根川圭一郎、中澤 吉
布村 成具、星野 和夫、宮田 隆司、門司 利夫

16. 鉄鋼ISO運営委員

H 3. 4. 1 委囑 森 孝 解囑 竹下 勅三
H 3. 6. 27 委囑 近藤 嘉一 解囑 宮地 昭夫
H 3. 7. 5 委囑 中澤 吉 解囑 藤原 俊朗
H 3. 7. 24 委囑 中村 和生 解囑 弘田 昇
H 3. 8. 8 委囑 斎藤 真人 解囑 島 弘志
委囑 光武 紀芳 解囑 副島 利行
H 3. 9. 12 委囑 伊藤 元清 解囑 田中 明広

IV. 一般会計による事業

1. 刊行事業

1.1 鉄と鋼

第77年3号～第78年2号、12冊を発行。内「表面処理」(7月号)、「分析評価・解析」(11月号)が特集号。平成4年度は投稿論文185件、掲載論文228件、1712頁、解説等63件、502頁ISIJ情報ネットワーク735頁、合計2949頁。

1.2 ISIJ International

Vol.31, No.3からVol.32, No.2まで12冊を発行。内次の5冊が特集号

①Recent Advances in Blast Furnace Ironmaking Technology (No.5)、②Recent Advance in Rolling Technology (No.6)、③Recent Advances in Titanium Technology (No.8)、④Advanced High Temperature Intermetallics (No.10)、⑤Interfacial Phenomena in Refining and Casting Processes of Iron and Steel (92, No.1)

平成3年度は投稿論文217件、掲載論文164件、1149頁、掲載Review30件、312頁、合計1461頁。

1.3 材料とプロセス

第121回(春季)講演大会(Vol.4, No.1～No.3)、第122回(秋季)講演大会(Vol.4, No.4～No.6)を発行。
Vol.4, No.1 (高温物理化学・プロセス、製鉄) 265件、314頁
No.4 (製鉄・製鋼共通、製鋼) 334件、394頁

No. 2	計測・制御・システム技術、分析 評価・解析技術加工・利用技術、 表面技術、萌芽・境界領域	321件、618頁
No. 5		
No. 3	材料の組織・性質	159件、180頁
No. 6		

1. 4 図書の刊行

①プロセスシミュレーション技術の基礎と応用、②戦前軍用特殊技術の導入と開発、③Chemical Properties of Molten Slags、④金属精錬プロセスにおける高温界面移動現象、⑤鉄鋼の結晶粒超微細化、⑥腐食損傷を受ける鉄鋼材料の寿命・余寿命評価マニュアル、⑦耐熱鋼の高温クリープおよびクリープ疲労損傷材のレプリカ法による非破壊的損傷量/寿命評価—別冊：レプリカ法によるクリープおよびクリープ疲労損傷量評価法マニュアル—付、⑧湿潤硫化水素環境における鉄鋼材料の割れ感受性評価、⑨会員名簿(91・92年版) ⑩Proceedings: International Conference on Evaluation of Materials Performance in Severe Environments, ⑪Proceedings: International Conference on Stainless Steels

1. 5 刊行物の分譲

本会刊行物の分譲の合理化のため、平成2年度の刊行物の在庫管理、販売の外委託に引続き、今年度は定期刊行物も委託。また平成3年度より図書の送料、消費税はすべて本会負担とし、これは過去刊行した図書にも適用。

2. 講演大会事業

2. 1 講演大会

2. 1. 1 第121回講演大会

- 1) 会期 H 3. 4. 2 (火)、3 (水)、4 (木)
- 2) 会場 東京大学工学部、法学部、文学部
- 3) 講演数 高温物理化学・プロセス 54件、製鉄・製鋼共通22件、製鉄81件、製鋼108件、計測・制御・システム技術46件、分析評価・解析技術30件、加工・利用技術127件、表面技術45件、萌芽・境界領域73件、材料の組織・性質159件 合計745件(内討論会58件)

4) 討論会

- ①高炉への微粉炭の多量吹込み技術 座長 田村健二 講演6件(内IRSIO(仏)より1件の講演)
- ②鉄鋼プロセスにおけるフラックス—メタル間反応の効率向上 座長 井口泰孝、副座長 向井楠宏、妹崎正治 講演9件
- ③圧延プロセスにおけるロールの現状と将来展望 座長 小豆島明、副座長 山本普康 講演14件
- ④垂鉛めつき鋼板の機能処理 座長 野村伸吾、副座長 山下正明 講演11件
- ⑤鉄鋼材料の状態分析 座長 佐伯正夫 講演12件
- ⑥新建築用厚板とその応用 座長 岡本健太郎、副座長 坂本傑 講演6件

5) 講演大会関連行事

- (1)懇親会(4月2日 18:00~20:00 如水会館)

参加者 430名

司会 南雲道彦(早大教授)
挨拶 西澤泰二(金属学会会長)
森田善一郎(本会会長)

乾杯 橋口隆吉(本会名誉会員、東大名誉教授)

- (2)ジュニアパーティー(4月3日 17:40~19:30 東大生協第2食堂)

参加者 152名

挨拶 尾上俊雄(講演大会分科会幹事・神鋼)

- (3)鉄鋼・金属連絡会(4月3日 12:00~13:00 学士会分館)

出席者 鉄鋼協会 佐野信雄理事、他8名
金属学会 小岩昌宏理事、他10名
講演大会の開催地・平成4年春(千葉工大)、同年秋(富山大学)、平成5年春(横浜国大)、同年秋(東海地区)と決定

2. 1. 2 第122回講演大会

- 1) 会期 H 3. 10. 1 (火)、2 (水)、3 (木)
- 2) 会場 広島大学東千田キャンパス
- 3) 講演数 高温物理化学・プロセス70件、製鉄117件、製鉄・製鋼共通29件、製鋼118件、計測・制御システム技術53件、分析評価・解析技術19件、加工・利用技術126件、表面技術78件、萌芽・境界領域80件、材料の組織・性質240件、合計930件(内討論会82件)
- 4) 討論会

- ①高炉の機能拡大技術 座長 小野陽一 副座長 清水正賢 講演数7件
- ②鋼中非金属介在物の諸問題 座長 川上正博、水渡英昭 副座長 小山伸二 講演数11件
- ③鉄鋼における知的情報処理技術 座長 小林重信、副座長 中北輝雄 講演数8件
- ④H形鋼の圧延理論と製造技術の進歩 座長 木内学 副座長 稲垣彰 講演数10件
- ⑤高耐熱材料の創製と特性 座長 吉田豊信、鈴木洋夫 講演数16件
- ⑥自動車排気系用材料 座長 根本力男、伊藤勲 副座長 富士川尚男 講演数23件
- ⑦樹脂複合型制振鋼板の利用技術 座長 渋谷敦義 副座長 増原憲一 講演数7件

5) 講演大会関連行事

- (1)懇親会(10月1日 18:00~20:00 広島グランドホテル)

参加者 464名

司会 小野山征夫(新日本製鉄・光研究部長)
挨拶 木村達也(実行委員長)
(新日鉄・常務取締役光製鉄所長)

森田善一郎(本会会長)
西澤泰二(金属学会会長)
田中隆荘(広大学長)

乾杯 藤原浩(副実行委員長(広大教授))

- (2)ジュニアパーティー(10月2日 18:00~20:00

KKR広島)

参加者 188人

挨拶 尾上 俊雄 (講演大会分科会幹事・神鋼)

(3)鉄鋼・金属連絡会 (10月2日 12:00~13:00)
 広大総合科学部第2会議室)

出席者 鉄鋼協会 佐野 信雄理事、他7名
 金属学会 小岩 昌宏理事、他10名

平成4年春季大会(千葉工大)懇親会は津田沼グランドホテルに決定。平成5年秋季大会会場は名古屋工業大学に決定。両会の講演増加に伴い将来同じ会場での開催の困難が予想され、その対策を両会から代表者を出し検討する。

2.2 特別講演会

(1)渡辺義介賞受賞記念講演

(4月2日 15:30~16:10)

「日本鉄鋼業の発展と私」

(日新製鋼㈱代表取締役社長 甲斐 幹)

(2)西山賞受賞記念講演 (4月2日 16:15~16:55)

「融体精錬反応の速度論的基礎」

名古屋大学名誉教授、日本鋼管㈱顧問 森 一美

(3)浅田賞受賞記念講演 (10月1日 15:50~17:00)

構造力学・溶接力学からみた鋼構造物製作技術の発展
 「(15:50~16:25)

東京大学名誉教授、東京理科大学工学部機械工学科教授 藤田 譲

②「長大橋への挑戦」(16:25~17:00)

田島橋渠構造研究所ブリッジアドバイザー

田島二郎

2.3 講演大会見学会

2.3.1 工場見学会 (H3.10.4)

第1班 マツダ㈱本社工場、造幣局広島支局、麒麟ビール㈱広島工場 参加費4,000円、参加者60人

第2班 川崎製鉄㈱水島製鉄所、瀬戸大橋、川崎重工㈱坂出工場 参加費5,000円、参加者61人

2.3.2 婦人見学会 (H3.10.2)

安芸の宮島 参加費7,000円、参加者29人

3. 育成事業

3.1 西山記念技術講座

(1)第138回、第139回「表面処理技術の進歩と今後の動向」

(東京・経団連ホール) H3.5.14~15

聴講者231人

(大阪・科学技術センターホール) H3.5.22~23

聴講者236人

(2)第140回「最近の非破壊検査技術の進歩」

(東京・農協ホール) H3.11.25~26 聴講者132人

(3)第141回、第142回「鉄鋼材料の高強度化技術」

(東京・経団連ホール) H4.2.13 聴講者164人

(大阪・科学技術センターホール) H4.2.21 聴講者153人

3.2 白石記念講座

(1)第20回「90年代のコンピュータテクノロジーの利用

技術」(東京・経団連ホール) H3.6.12 聴講者162人

(2)第21回「海洋開発の動向-21世紀を目指して-」

(東京・農協ホール) H3.11.27 聴講者64人

3.3 鉄鋼工学セミナー

第17回鉄鋼工学セミナー

会期 H3.7.27(土)~8.2(金)

場所 宮城県蔵王町 蔵王ハイツ

受講生 製鉄コース 23名、製鋼コース48名、材料コース119名 計190名

講師 製鉄コース 12名、製鋼コース12名、材料コース21名

3.4 学生見学会

第6回の理工系大学生のための研究所・製鉄所の見学会を14学会の協賛を得て3月18、19、20、22日の4日間全国18会場で実施。参加者はほぼ昨年並の843名。

3.5 他学協会との共催、協賛、後援による事業

他学協会等との共催、協賛、後援、協力件数は、H2年度を上まわり共催:30件、協賛:117件、後援:14件、協力:1件合計162件。

4. 国際交流事業

4.1 International Conference on Stainless Steels-Stainless Steels '91(国際ステンレス鋼会議)

1)会議 H3.6.10~6.13 (組織委員長:横田 孝三)

千葉市・日本コンベンションセンター(幕張メッセ)

講演総数は165件、内開会講演3件(下記)、基調講演13件(日本7、海外6)、イブニングレクチャー1件(下記)、5つのトピックス別の講演数は次のとおり。

①Corrosion and Oxidation 50件

②Physical and Mechanical Properties and Microstructure 47件

③Process Technologies Related to Properties 25件

④Fabrication and Product 22件

⑤Applications 17件

参加者数日本306名、韓国27名他スウェーデン、アメリカ、イタリー、南アフリカなど19ヶ国130名合計436名。3会場に分かれて実施。

①開会講演

Recent Trends in Technology and Application of Stainless Steel in Japan

甲斐 幹 日新製鋼㈱代表取締役社長

The Physical Metallurgy of Stainless Steels

R. Lagneborg スウェーデン金属研究所所長

Corrosion Science of Stainless Steels

M. O. Speidel スイス国立工科大学教授

②Evening Lecture

Stainless Steel and Urban Environments

-Sculpture as One of the Factors Composing Urban Image-

飯田 善国 彫刻家

2) 見学会 5 コース7 関連会社の工場見学会を実施、延140名が参加。

今回はH5. 10イタリアのフローレンスで開催予定。本国際会議の開催に際し、ステンレス協会およびNickel Development Instituteから補助金の交付を受けた。

4. 2 国際会議・二国間シンポジウム準備状況

4. 2. 1 4th International Conference on Molten Slags and Fluxes

(第4回溶融スラグとフラックスに関する国際会議) H4. 6. 8~6. 11仙台市(仙台国際センター) 組織委員会(萬谷志郎委員長)で論文募集を行い、日本63件海外84件計147件のアブストラクトを採択。H3. 11にプログラムを収載した3rd Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布、参加者を募集。

4. 2. 2 International Conference on Computer-assisted Materials Design and Process Simulation

(材料設計及びプロセス工学へのコンピューター利用に関する国際会議) H5. 9. 6~9. 9東京都(日本都市センター)

組織委員会(新居和嘉委員長)ではH3. 7に1st Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配付、論文を募集。

4. 2. 3 International Congress on Science and Technology of Ironmaking (製鉄分野国際会議) H6 開催予定

第6回鉄鋼科学技術国際会議(H2. 10開催)に準ずる製鉄分野の国際会議の開催決定、組織委員会(徳田昌則委員長)を設置、準備業務を開始。

4. 2. 4 第5回日本・ノルディック諸国シンポジウム H4. 9

ヘルシンキ・フィンランド

組織委員会(雀部実委員長)が日本側アブストラクトの取りまとめおよび先方への送付等を準備。

4. 2. 5 International Congresses on Electromagnetic Processing of Materials

(材料電磁プロセッシング国際会議) H6 開催予定 組織委員長(浅井滋生)選任ならびに組織委員会設置を決定。

4. 2. 6 第6回日本・中国鉄鋼学会 H4. 11 千葉市

組織委員会(森田善一郎委員長)の設置決定、準備業務を開始。

4. 2. 7 第8回日本・ドイツシンポジウム H5 仙台

H2開催予定をドイツ側の都合でH5に延期。

4. 3 その他の国際交流

4. 3. 1 日本・チェコスロバキア技術交流会(本会后援) H3. 10. 15~10. 16 フリイデック・ミステック、チェコスロバキア

菊池 實団長(東工大)他団員9名がチェコスロバキアを訪問、技術交流会及び工場見学を行った。交流会のテーマはSteel Products and Properties for Fossil

Fuel Power Generating Plants and Chemical Equipment。

4. 3. 2 海外学協会等との交流

平成3年度の本会への主要来訪者、海外への派遣者は次のとおり。

1) H3. 4. 2~4 第121回講演大会でS. Simeonov (Sofia Univ)、F. Graffeuille、N. Jusseau (SOLLAC) F. Mosser (LORFONTE) R. Nicolle (IRSID)、J. Choi、J. K. Lee (RIST) G. Lamanthe (SNECMA)、賈常志(鞍鋼)らが講演発表。

2) H3. 5. 14世界金属・材料関係学協会専務理事会議(London)に専務理事島田仁を派遣

3) H3. 5. 16~5. 31 A I S EのMr. John W. Schultes他5名鉄鋼6社のコールドストリップミルの品質調査(主に冷延鋼板の平坦度) ミッション

4) H3. 10. 1~3 第122回講演大会でJ. Szekeley (MIT)、J.M. Park、S. K. Jung、H. N. Hwan、金鍾澤、G. S. Kim、李泌鐘、Y. R. Cho、Y. H. Bae、李在隆、朴誠国、崔圭昇、金在寛、鄭鎖煥、K. I. Lee、C. S. Lee (RIST)、楊錦成(中国台湾工研院) 殷匠(上海5鋼)、譚玉華(中国湘潭大学) H. C. Chen (China Steel Corp) らが講演発表

5) H3. 11. 6 呉世翊、韓国鉄鋼協会、申榮秀、東部製鋼株、潘徳榮、高麗製鋼株、李因燮、韓国鉄鋼協会の4名が本会事業調査のため来訪

6) H3. 11. 13世界金属・材料関係学協会専務理事会議(Düsseldorf)に専務理事島田仁を派遣

4. 3. 3 平成3年度に協賛した国際会議 開催地域別件数は次のとおり。

アジア13件、ヨーロッパ8件、アメリカ3件、オセアニア1件、計25件

5. 技術調査・研究事業

5. 1 共同研究会

(会長: 森田善一郎、幹事長: 細木 繁郎)

18部会、14分科会、7小委員会、3専門委員会

1技術検討会で構成、鉄鋼製造技術に関する各種の研究を共同で実施。

5. 1. 1 製鉄部会(部会長: 渋谷 梯二)

2回開催。第78回は、共通議題「魅力ある職場環境づくり」8件、自由議題6件の研究発表と特別講演「合同製鉄No.2高炉の最近の操業について」(合鐵・本社)。第79回は、共通議題「熱風炉の現状と寿命延長について」9件、自由議題6件の研究発表と特別講演「加古川第2高炉における最近の操業(神鋼・加古川)。

製鉄技術検討会は、2回開催。検討課題別に3つのワーキンググループに分れ、21世紀における製鉄技術について検討中。

5. 1. 2 コークス部会(部会長: 楯岡 正毅、H2. 12月以降 彼島 秀雄)

2回開催。第42回は、共通議題「人にやさしいコークス工場を目指して-労働の快適化・自動化の現

状と将来」10件、自由議題5件の研究発表と特別講演「次世代コークス炉創造と石炭乾留制御部会活動」(九大・持田部会長)。第43回は、共通議題「コークス工場の省エネルギーの現状と将来」10件、自由議題7件の研究発表。

5. 1. 3 製鋼部会 (部会長: 島 孝次、H 3. 8 月以降、王寺 睦満)

2回開催。第104回では、重点テーマ「連铸ノズル閉塞現象とその対策」6件、自由テーマ12件の研究発表と特別講演「鹿島製鉄所における製鋼技術の現状」(住金/鹿島)、第105回では、重点テーマ「製鋼工場における製鋼技術の現状」6件、自由テーマ13件の研究発表と、特別講演「大分製鉄所における製鋼技術の現状」(新日鐵/大分)。

5. 1. 4 電気炉部会 (部会長: 石原 弘二)

2回開催。第37回は、共通テーマ「アーク炉の効率向上対策について」21件、自由テーマ6件、特別講演「当社製鋼技術の現状について」(愛知製鋼)。第38回は、共通テーマ「取鍋耐火物関連」20件、自由テーマ5件、特別講演「最近の電気炉をとりまく電気自動制御」(東芝)。

5. 1. 5 特殊鋼部会 (部会長: 矢島 忠正)

2回開催。第90回は、共通テーマ「エレクトロスラグ溶解(ESR)の操業と技術改善について」8件、自由テーマ12件、特別講演「当所における製鋼技術の現状」(新日鐵・室蘭)。第91回は、共通テーマ「極低C、Nフェライト系ステンレス鋼の製造技術改善について」9件、自由テーマ8件、特別講演「周南製鋼所における製鋼技術の現状」(日新製鋼・周南)、オリエンテーション「フェライト単相鋼の材料特性におよぼす不純物元素の影響」(日新製鋼・鉄鋼研)。

5. 1. 6 鋼板部会 (部会長: 君嶋 英彦)

1) 分塊分科会

2回開催。第70回は、共通議題「ホットスカーファの現状と改善策」13件、自由議題12件の研究発表と特別講演「君津の条用分塊の歩み」(新日鐵/君津)。第71回は、共通議題「連铸材分塊圧延製造コスト」13件、自由議題12件の研究発表と特別講演「鋼片工場の歩み」(山特/本社)。

2) 厚板分科会

2回開催。工場操業状況報告とメインテーマ討議(第71回は、「高品質造り込み技術」、第72回は、「工程管理技術」)。

3) ホットストリップ分科会

2回開催。操業状況調査、共通議題第54回は、「直送圧延」第55回は「高品質化」、自由議題 各回毎13件。

4) コールドストリップ分科会

2回開催。操業状況調査、共通議題第53回は「省力化」、第54回は「板厚精度」、自由議題 各回15件、13件。

また15回レバースミル見学会を行い、議題「圧延油の性状と管理」について討議。

5. 1. 7 亜鉛めっき鋼板部会 (部会長: 鍋丁 雅彦)

2回開催。操業状況調査、共通議題第12回は「要員と省力化」、第13回は、「連続溶融亜鉛めっき設備仕様」自由議題 各回11件、12件。

5. 1. 8 条鋼部会 (部会長: 三宮 章博)

1) 大形分科会

① 2回開催。第53回は操業データ、テーマ研究「生産性の向上について」、自由研究6件、鉄骨建設現場の見学。第54回は操業データ、テーマ研究「ロールの現状と今後の課題」、自由研究8件。

② 「大形工場の設備仕様集」を改訂発行。

2) 中小形分科会

① 2回開催。第70回は操業データ、テーマ研究: 普通鋼グループ「設備保全体制について」、特殊鋼グループ「要員合理化の現状と今後について」自由研究14件、特別講演「線材棒鋼圧延機における制御技術の現状と動向」。第71回は操業データとテーマ研究: 普通鋼グループ「要員合理化の現状と今後について」特殊鋼グループ「圧延能力(能率・稼働率)向上対策について」、自由研究16件。

② 「中小形工場のレイアウト集」「中小形分科会70回の歩み」を発行。

3) 線材分科会

① 2回開催。第71回は操業データ、テーマ研究「線材精整作業の実態と今後の課題」、自由研究13件。第72回は、操業データ、テーマ研究「線材工場の自動化・コンピュータの活用」、自由研究14件。

② 「線材工場のレイアウト集」「線材分科会の歩み」を発行。

5. 1. 9 鋼管部会 (部会長: 高井 岩男)

2回開催。第56回は特別議題の講演「自動車の多様化と材料技術-自動車用鋼材に要求される特性と今後の動向」、第57回は共通議題「パネルディスカッション-21世紀の鋼管製造プロセスとその課題」を実施。

1) 継目無鋼管分科会

第45回1回開催。熱押・冷牽関係は共通議題2件「脱ガラス・脱スケール関係について」、「ホット・コールドの検査および製品作業の実態調査」。またマンネスマン関係では、共通議題2件「計装機器の利用方法と精度について」、「最近のユーザー要求とその対応について」を報告。

2) 溶接鋼管分科会

第45回1回開催。電縫・鍛接関係は共通議題2件「電縫管のめっき操業条件と生産性について」、「電縫管の歩留向上対策について」。また電弧溶接関係は共通議題2件「スパイラルの二次加工品の生産性向上について」、「UOE鋼管の設定替について」を報告。

さらに上記両分科会とも、工場操業状況を各参加事業所より報告。

3) 高級ラインパイプ専門委員会

2回開催。さらに、破壊、腐食の2WGにて活動。破壊関係は「シェブロンノッチDWT Tの適用」、腐食関係は「実管試験を含む溶接部割れ評価試験」を研究、検討。

5. 1. 10 圧延理論部会 (部会長：林 千博)

3回開催。圧延に関する基礎から応用にいたる広範囲の研究が自由テーマ67件。メインテーマは第93回は「ステンレス・チタン・特殊鋼・電子材料(板、管、条、形)の加工プロセス」、第94回は「圧延および精整ラインにおける計測と制御」第95回は「板圧延およびプロセスライン」。

5. 1. 11 熱経済技術部会 (部会長：合野 定彦)

2回開催。第88回では、統一議題「CC-HDR, DHCR操業における鋼片温度補償技術」、研究議題2件、自由議題8件、自由討論5件を報告。第59回は、統一議題「熱間圧延後の鋼材冷却の現状と今後の課題」、研究議題2件、自由議題12件、自由討論5件、各社エネルギーバランスまとめを報告。

また、新燃焼技術研究小委員会の活動を開始。6回開催し、現状の燃焼技術を調査し今後の方向を検討。

5. 1. 12 耐火物部会 (部会長：今井 卓雄)

① 2回開催。第49回は共通テーマ「脱ガス用耐火物」5件、「圧延窯炉用耐火物」3件、「取鍋用耐火物」4件、「自由研究」4件、特別講演「耐火物成分としてのマグネシア」。第50回は統一テーマ「2010年に向けての耐火物と施工技術」、特別講演「21世紀のわが国の鉄鋼業の展望」「製鋼技術の動向と展望」「耐火物技術の進歩と今後の展望」。

② 「製鋼用耐火物(第2版)」(IISI)の調査・解析。

5. 1. 13 計測制御部会 (部会長：石川 隆)

2回開催。第103回は、プロセス技術5件、システム技術4件、センサ(1)8件、センサ(2)6件、知識工学5件の計30件の研究発表と特別セッション「エキスパートシステムをもっとインテリジェントにするためには」にて事例発表5件と討議。第104回は、センシング7件、システム(I)5件、システム(II)5件、プロセス制御5件、物流制御3件の計25件の研究発表と特別セッション「E I C統合システムの現状と今後の課題」にて事例発表6件と討議。

5. 1. 14 品質管理部会 (部会長：萩原 康彦)

2回開催。第64回は、共通議題「社内品質管理診断(監査)の実態と問題点」14件の論文発表、アンケート結果報告(14社44事業所)、特別講演「小棒自動探傷・自動疵取ライン紹介」(大同・知多)および非破壊検査小委員会活動報告。第65回は、共通議題「造り込みによる品質保証の実態と今後の課題」14件の論文発表、アンケート結果報告(14社35事業所)、

特別講演「高炉操業安定化のためのA I技術の適用」(神鋼・加古川)および機械試験小委員会活動報告。

1) 機械試験小委員会

2回開催。次の各テーマ毎に、活動報告、アンケート結果報告、および討議を実施①検査精度②自動化・能率化③標準化。

自動化・能率化の事例紹介では、第49回4件、第50回5件。また、第50回を記念して自動化・能率化の活動報告書を刊行。

2) 非破壊検査小委員会

2回開催。第36回は、WG活動報告、定期実態調査報告「条鋼、形鋼の非破壊検査設備調査」、自由議題7件の論文発表と特別講演「NDI開発体制と開発事例」(日本クラウトクレーマー・フェルスター)。第37回は、WG活動報告、定期実態調査報告「会議体・関連組織体と従事者数」、自由議題9件の論文発表と特別講演「表面検査の動向」(東芝・設計)。

5. 1. 15 運輸部会 (部会長：早川 茂)

第16回1回開催。物流技術調査小委員会調査結果の共通議題「物流に於ける合理化・効率化技術の実態と将来動向」、自由議題12件を報告。

5. 1. 16 調査部会 (部会長：中島 一郎)

第17回1回開催。調査テーマ「未来産業としての鉄鋼業」に関する活動の一環として、企業7社、大学11校を対象とした「魅力ある鉄鋼業を目指して」と題するアンケート調査結果の解析内容を報告し、鉄鋼業の現状イメージと将来の課題についての討議。

5. 1. 17 鉄鋼分析部会 (部会長：佐伯 正夫)

第69回1回開催。分科会及び小委員会の活動経過報告と運営体制の討議。

1) 化学分析分科会

2回開催。

① 鍋中のP、As、B、Ta、Cr、通則のJIS改正原案の解説を審議。工技院へ提出。

② 鉄鉱石分析JIS改正のための共同実験。

③ 鉄鉱石中のSの燃焼赤外線吸収法の共同実験。

④ フレームレス原子吸光法によるAs共同実験結果のまとめ、およびAl共同実験。

⑤ ICPによるNb定量法のJIS化の活動。

⑥ 吸光光度法によるTi定量方法のJIS化の活動開始。

2) 機器分析分科会

2回開催。WGの活動経過報告〔①鉄鉱石の蛍光X線分析方法の規格改正、②高炉スラグの蛍光X線分析方法、③チタン合金の蛍光X線分析方法、④鉄及び鋼の発光分光分析方法の規格改正、⑤鉄及び鋼の蛍光X線分析方法の規格改正〕と自由研究報告(第13回5件、第14回2件)。

3) 表面分析小委員会

3回開催。

以下の4件の共同研究の実験方法の確定。

① AES(Auger Electron Spectroscopy)での酸化物、窒化物、炭化物の状態変化による相対感度係数

- ② XPS (X-ray Photoelectron Spectroscopy) による金属酸化物の分析
- ③ SIMS (Secondary Ion Mass Spectrometer) の Cs⁺による金属材料の測定
- ④ 酸化皮膜のAr⁺によるスパッタ収率測定
- 4) 析出物分析小委員会
3回開催。析出物 (Laves、 γ 、 γ' 、 δ 相等) の抽出分離定量共同実験に関する研究報告とまとめ。(この第I期活動はH3、12月で終了、引続いて物理分析手法も噛み合わせた第II期活動に入る)
- 5) 鋼中微量炭素定量法研究小委員会
鋼中微量炭素 (1~50ppm) の定量方法の確立を目指して、H3、9月に発足、2回開催、共同実験につき審議。
5. 1. 18 設備技術部会 (部会長：古賀 丈幹 若月 晴夫)
- 1) 鉄鋼設備分科会
2回開催。第44回は、共通議題「連铸設備技術の向上と今後の課題—鑄型~ロールセグメントにおける長寿命化技術の現状と今後の課題」6件、アンケート集約結果の解析、自由議題9件、特別講演「サイクロ減速機について」(住重・名古屋)、「高温・低温用探触子の開発と適用例」(石播・技研)、「テレ・イグスタンス技術の現状」(日商エレクトロ)。第45回は、共通議題「高炉長寿命対策と今後の課題」8件、アンケート集約結果の解析、自由議題7件、特別講演「吸収ヒートポンプによる低温排熱の回収、有効利用」(日造・技研)。
- 2) 圧延設備分科会
2回開催。第44回は共通議題「圧延設備における設備故障と定期修理」、第45回は、「熱延鋼板品質と設備技術 (その現状と今後の状況)」。また各々のテーマのWGを新設、各社アンケートの取りまとめ。
- 3) 電気設備分科会
2回開催。第30回は共通議題「大型電気機器保全の現状と動向」、第31回は「監視診断システムの導入実績と今後の動向」を討議。また各々のテーマに対するWGで、アンケート集約結果を解析。自由テーマ19件。
5. 2 特定基礎研究会 (運営委員長：山口 正治)
運営委員会を2回開催、各部会の活動報告を行った。「応力下における腐食評価部会」、「構造材料の信頼性評価技術部会」が終了、H3年度は新規に「鉄鋼の初期凝固研究部会」、「高純度Fe-Cr合金研究部会」が活動を開始。
5. 2. 1 応力下における腐食評価部会 (部会長：辻川 茂男)
3回開催。次の4テーマの応力下における腐食評価の合理的な手法研究成果をシンポジウムにて報告。
①SSC試験方法と評価基準 ②ラインパイプ溶接部のSSC ③アルカリ環境におけるSSCおよびSCC ④水素侵入機構ならびに割れ発生機構
5. 2. 2 構造材料の信頼性評価技術部会 (部会長：田中 良平)
研究活動終了により報告書の刊行と報告会の実施。
① 研究成果報告書：『耐熱鋼の高温クリープおよびクリープ疲労損傷材のレプリカによる非破壊的損傷量/寿命評価』『レプリカ法によるクリープおよびクリープ疲労損傷量評価マニュアル』『腐食損傷を受ける鉄鋼材料の寿命・余寿命評価マニュアル』
② 成果報告会 (11/18、19)：発表件数21件。
5. 2. 3 充填層中の気・固・液移動現象部会 (部会長：八木順一郎)
高炉の高性能化をはかるため、高炉下部でおこる移動現象を総合的に解明することを目的に、2回開催。次の5テーマについて、各ワーキンググループでの研究成果を発表。①微粉炭の燃焼と粉の発生 ②充填層における微粉の運動と蓄積 ③充填層内を流下する融体の流れ ④充填粒子の降下挙動 ⑤充填層内を流れる液体、気体と充填粒子の伝熱。また、新規に「総合シミュレーションWG」を設け、各WGの研究成果を織り込んだモデルを開発中。
5. 2. 4 材料電磁プロセシング部会 (部会長：浅井 滋生)
電磁気力による溶融金属流動制御と数値解析に焦点を当て、3回開催。第7回、第8回および第9回部会で、それぞれ6件、7件および6件の研究発表。
H3、4月および10月に、それぞれ第1回および第2回中間報告会を開催。
5. 2. 5 コークス製造のための乾留制御部会 (部会長：持田 勲)
基準の共通石炭を使用し、データ蓄積とプロセスイメージの具体化に重点を置き、1回開催。次の項目に関する研究発表8件と討議を実施。
① 石炭の軟化溶融時の粘性、接着力測定による、加熱石炭の輸送に関するデータ
② 石炭急速加熱時の発生ガス成分と塊成化温度の関係
③ 急速加熱と塊成化を連続して行える装置の開発
④ 塊成化後のセミコークス炭化条件の検討
⑤ 低温乾留コークスの高炉内挙動の検討
5. 2. 6 鉄鋼の初期凝固研究部会 (部会長：梅田 高照)
H3年から発足した新規部会。炭素鋼、高合金鋼等の鑄片表面性状を制御し、向上させるための初期凝固現象の解明を目的として設立。3回開催。第1回は、部会運営の検討と研究発表3件。第2回は研究発表5件、第3回は研究発表6件。
5. 2. 7 高純度Fe-Cr合金研究部会 (部会長：谷野 満)
H3年度から発足した新規部会。
2回開催。第1回は、部会活動の基本方針を審議。第2回は、各委員の研究分担 (成分系、研究項目)

を討議。

5. 3 基礎研究会 (運営委員長: 山口 正治)

運営委員会を2回開催。各研究部会の活動報告

H3年度は新規に「マイクロ組織センサー研究部会」、
「鉄鋼業における炭酸ガス抑制対策研究部会」が活動を開始。

5. 3. 1 熱プラズマ研究部会 (部会長: 牛尾 誠夫)

熱プラズマの鉄鋼その他の材料製造プロセスへの利用に主眼を置いて、3回開催。第6回~第9回部会で各5件の研究発表、H3. 10月に中間報告会を開催。

5. 3. 2 ベイナイト調査研究部会 (部会長: 荒木 透)

3回開催。低炭素系鋼のベイナイト(ないし類似)組織の解釈、表記法および生成機構について調査研究をすすめ、組織判定と用語の将来の統一に決め手となり得る写真集をH4年度初めに刊行するため写真集の構成および掲載写真について討議。

5. 3. 3 VAMAS低サイクル疲労研究部会 (部会長: 北川 正樹)

3回開催。試験結果の報告を行い、研究成果を「鉄と鋼」に掲載し、活動を終了。

また、4月には材料データベースにおけるデータ評価モデルの標準化を目的に材料データ評価モデル分科会を設置し、2回の分科会と疲労WG、クリープWG各2回を開催。

5. 3. 4 耐熱強靱チタン研究部会 (部会長: 岸 輝雄)

4回の部会と講演会を開催。第5回で疲労WGと物性WGの中間報告、特別講演4件を含む研究発表は第6回に7件、第7回に6件、第8回に5件。また課題推進のため物性と疲労の2WGを各々3回、5回開催。

5. 3. 5 組織制御と性質研究部会 (部会長: 小指 軍夫)

4回開催。特別講演3件、研究発表3件、組織と機械的性質WGと、組織と疲労強度WGによるデータ集の検討。

5. 3. 6 極低炭素鋼板研究部会 (部会長: 佐久間 健人)

4回開催。第5回~第8回部会で各3件の研究発表、極微量炭素定量共同実験も実施。

5. 3. 7 圧延ロール研究部会 (部会長: 木原 諄二)

2回開催。普通鋼、ステンレス鋼に関する熱延・冷延の各鉄鋼メーカーの使用ロールについての調査。熱間圧延におけるロール摩耗、ステンレス冷間圧延の表面性状の研究手法の検討。

5. 3. 8 ミクロ組織センサー研究部会 (部会長: 岸 輝雄)

H3年度に発足。2回開催し、結晶粒度等のミク

ロ組織の各種計測方法(超音波、X線、電磁気等)の基礎的な研究を行うため、共通サンプルの決定と標準的な計測条件を決定。

5. 3. 9 鉄鋼業における炭酸ガス抑制対策研究部会 (部会長: 小宮山 宏)

H3年度から発足した新規部会。地球温暖化抑制の観点から、鉄鋼業の炭酸ガス排出量を減少させる可能性について探索する目的として設立。3回開催。第1回は、部会運営の基本方針と研究分担について討議。第2回は、研究発表10件。第3回は、研究発表10件。

5. 4 鉄鋼基礎共同研究会 (会長: 松下 幸雄)

2回の運営委員会を開催。H3年度は「循環性元素分離部会」が発足、「界面移動現象部会」「鉄鋼の結晶粒超微細化部会」が活動を終了。

5. 4. 1 鉄鋼の結晶粒超微細化部会 (部会長: 徳永 洋一)

H2年度で活動終了。H3. 3月に部会報告書を発刊、同10月にシンポジウムを開催。

5. 4. 2 鉄基複合材料部会 (部会長: 新居 和嘉)

作製した共通試料に関する強度特性データと界面構造を結び付けて総合的に検討することに主眼を置き、第11回では、研究成果報告2件と中間報告会、成果報告書に関する討議を実施。また、H3. 10月に、第1回中間報告会を行い、部会概要紹介、製法に関する研究発表4件、性能評価に関する研究発表3件および総合討論を実施。

5. 4. 3 変形特性の子測と制御部会 (部会長: 吉永 日出男)

3回の部会、4回の研究会(部会内討論会)を開催し、次のテーマを討議。①組成と組織(熱履歴依存性、変形履歴依存性) ②組織と変形特性(高温、常温) ③変形特性の定式化 ④構成方程式とその応用。

5. 4. 4 鉄鋼の表面高機能化部会 (部会長: 増子 昇)

4回開催。TiN、Al₂O₃等のセラミックコート材料の耐食性評価法の明確化とデータベース構築を目的とした共同研究のための研究法案の作成。スケジュールの検討・決定を実施。

5. 4. 5 界面移動現象部会 (部会長: 徳田 昌則)

研究活動終了により、報告書の刊行と報告会の実施。

① 研究成果報告書: 「金属製錬プロセスにおける高温界面移動現象」 1991年5月発刊

② 成果報告会(H3. 6. 5~6): 泡立ちWG 7件、測定法WG 6件、マランゴニWG 4件、容量係数WG 5件、二次燃焼WG 5件の計27件の研究発表と討議を実施。

5. 4. 6 循環性元素分離部会 (部会長: 佐野

信雄)

鋼中のトランプエレメント(特にCu、Snなど)除去に関する基礎研究を目的として、H3、4月に発足、3回開催。第1回は、4件の研究発表と特別講演「トランプエレメントからみたスクラップの現状と問題点」、第2回および第3回は、それぞれ4件および7件の研究発表。

5.5 旧陸海軍鉄鋼技術調査委員会(委員長:堀川一男)

2回開催し報告書のとりまとめを行い、「戦前軍用特殊鋼技術と開発」を刊行。3年間にわたる調査活動を終了。収集文献を要約した調査シートの作成及び文献の製本化を完了。

5.6 日本金属学会との共同研究

(1) 金属状態図共同研究会

H3、2月をもって5年間の研究活動を終了したが、状態図の研究・編集の永続性と国際協力への対応などへの配慮から、さらに5年間延長。

(2) 金属間化合物共同研究会

日本金属学会を幹事学会とする8学協会からなる共同研究会で、研究テーマ「金属間化合物-新高温構造材料としての可能性」についてH3、10月より5年間の研究活動を開始。

6. 標準化事業

6.1 JIS原案作成等の国内標準化活動

- (1) 普通鋼分科会: 鋼板の板厚方向特性規定のJIS原案作成完了、JIS溶接構造用圧延鋼材の見直し審議。
- (2) 特殊鋼分科会: JIS高温用合金鋼ボルト材規格原案、JIS特殊用途合金鋼ボルト用棒鋼、JASO(自動車規格)自動車構造用鋼鋼材等の改正原案審議終了。
- (3) 鋼管分科会: JIS配管用ステンレス鋼鋼管等JIS6規格の改正原案審議(レーザー溶接採用)終了、同規格等5規格の鋼種追加等について改正原案の審議開始。
- (4) 機械試験方法分科会: JIS金属材料の引張クリーブ破断試験方法等2規格の改正原案審議、同解説案作成終了。
- (5) 上記各分科会では分野毎にISO/JISの整合の具体例についての検討。
- (6) ISO/JIS整合化推進WG: 「鉄鋼関係のISO/JIS整合化作業指針」を作成、望ましい審議組織についての検討もほぼ終了。
- (7) 外注化条件検討WGでは、「鉄鋼製造業における外注化問題について」を作成し業務を終了。

6.2 ISO国際会議等の標準化活動

- (1) 11月19/22日に開かれたISO/TC17(鋼)京都総会には21名の日本代表が出席。また上記総会にあわせて11月12/16日の間同一場所で開催された同SC12(薄板製品)、SC20(鋼の出荷条件)国際会議も好評をほくした。
- (2) 31件の国際規格最終原案について投票原案を作成。

- (3) 上記の他、次のISO/TC17(鋼)、TC67(石油及び天然ガス工業用材料及び装置)、TC164(金属の機械試験)などの19のISO国際会議に対応した原案の審議を行い、延べ35名の日本代表を派遣し日本意見の反映につとめた。

- ・TC17/SC4(熱処理鋼など)ジュッセルドルフ6月19/21日
- ・TC17/SC4とSC10(压力容器用鋼)の合同ジュッセルドルフ6月17/19日
- ・TC17/SC16(鉄筋棒鋼)イスラエル10月15/17日
- ・TC17/SC19(圧力用鋼管)ミラノ6月5/7日
- ・TC17/SC19WG(非破壊試験)ミラノ10月29/31日
- ・TC17/SC20(鋼の出荷条件)ジュッセルドルフ4月24/26日
- ・TC67(石油及び天然ガス工業用材料及び装置)総会サンデイエゴ6月6/7日
- ・TC67/WG2(認証)ハーグ11月5/6日
- ・TC67/WG2(認証)グラス1992年2月
- ・TC67/SC1(ラインパイプ)ジュッセルドルフ5月2/3日
- ・TC67/SC1(ラインパイプ)ジュッセルドルフ1992年1月27/28日
- ・TC67/SC5(油井管)サンデイエゴ6月4日
- ・TC67/SC5/WG1(油井管)パリ10月21/22日
- ・TC164(金属の機械試験)/SC1(単軸試験)ドルトムント9月18/20日
- ・TC164/SC2(延性試験)ヒッチン、英国6月6/7日
- ・TC164/SC3(硬さ試験)ドルトムント9月16/17日
- ・TC164/SC4F(靱性試験)リスリー、英国4月22/24日
- ・TC164/SC4P(衝撃試験)ヒッチン、英国6月3/5日
- ・TC164/SC5(疲れ試験)マンチェスター4月24/25日

7. 鉄鋼標準試料事業

- (1) 鉄鋼標準試料の製造状況
更新品: 14品種 仕掛品: 24品種
- (2) 新製品の開発
 - 1) 超高純度鉄(不純分20ppm以下)試料の製造
 - 2) 極微量元素含有鋼シリーズ機器分析用試料の製造
 - 3) 極微量炭素含有鋼シリーズ化学分析用試料の製造
…このための作業グループを設置
- (3) 委員会内規類の改定
 - 1) 内規および附属するガイド類を整備し、一部審議中
 - 2) ISO/REMCOが発行しているガイドへの整合

(4) その他

- 1) アメリカ合衆国NISTの高純度鉄2種類の認証値決定分析に参加
- 2) アメリカ合衆国NISTのステンレス鋼およびスウェーデンJKの鉄鉱石の認証値決定分析への参加依頼を受諾
- 3) 標準試料事業の一部業務の外部委託の検討

8. 技術情報事業

8. 1 図書・資料事業

図書・資料室所蔵の雑誌、数値データ集の縮小整理を行い、デポジットライブラリー対象誌の2/3を収集した。

8. 1. 1 閲覧および複写サービス

- (1) 閲覧のできる所蔵資料
 - ① 雑誌、紀要類
 - a. 国内 170種、b. 海外 140種
 - ② 一般図書（協会刊行物を含む）
 - a. 和書 1,480冊 b. 洋書 300冊
 - ③ 国際会議プロシーディングス 1,680点
- (2) 図書室利用実績（平成3年3月～平成4年1月）
 - ① 閲覧者数 1,090名
 - ② 借出者数（冊数） 188名（255冊）
 - ③ 複写サービス（論文件数 1,050件）
複写枚数 31,522枚

8. 1. 2 その他の情報提供サービス

- (1) 「鉄と鋼」(Vol. 41、1955年より)、「材料とプロセス」(Vol. 1、1988年より)のバックナンバーロールフィルムの頒布サービスを会員各社15事業所に対して実施。「ISIJ International」(Vol. 1、1961年より)ロールフィルムについて会員各社4事業所に頒布。
- (2) 日本鉄鋼協会共同研究会の部会、分科会資料のマイクロ化(1980年秋季分より)を実施、会員各社31事業所に頒布。またそれに付随して、日本鉄鋼協会共同研究会資料の索引誌を各社45事業所に限定頒布。
- (3) 今年度より、学振製鋼第19委員会・製鉄第54委員会配布資料(但し、3年前平成元年度開催分)のマイクロ化を実施、会員各社22事業所に頒布。
- (4) 「国内学協会主催会議案内」(1980年11月より)を毎月発行し、会員11事業所へ頒布。
- (5) 「国際会議資料案内」(1989年1月より)を毎月発行し、会員106事業所に無料で頒布。

8. 1. 3 平成3年度収集資料の増加数

- (1) 国際会議資料(プロシーディングス) 80点
- (2) 数値データ集 63点

8. 2 情報業務事業

J I C S Tの科学技術文献データベースへのインプット協力事業を従来通り行った。

- (1) 抄録件数 5,043件
- (2) 校閲件数 6,705件

V. 特別会計による事業

1. 特別資金会計による事業

1. 1 表彰

1. 1. 1 H 3. 4. 2 第76回通常総会において表彰式を行い、下記のとおり表彰した。

- (1) 渡辺義介賞
甲斐 幹 日新製鋼(株)代表取締役社長
「わが国鉄鋼業の進歩発展、特に製鋼技術の発展と鉄鋼生産の近代化」
- (2) 西山賞
森 一美 名古屋大学名誉教授
「製鋼反応に関する物理化学的・プロセス工学的研究」
- (3) 服部賞
阪本 英一 日本鋼管(株)専務取締役鉄鋼事業部副事業部長
「製鋼技術の進歩発展と新技術・新製品の開発」
中川 一 新日本製鐵(株)常務取締役技術本部長
「製鋼技術の進歩発展と製鉄所の近代化」
- (4) 香村賞
伊藤 慶典 日本パイプ製造(株)代表取締役社長
「わが国溶接技術の進歩発展」
大橋 延夫 川崎製鉄(株)専務取締役技術研究本部長
「各種鉄鋼材料の開発と改良」
- (5) 渡辺三郎賞
朝位 義照 日立金属(株)常務取締役自動車機器事業部長
「高級特殊鋼生産技術の進歩発展」
品川 丞 東北特殊鋼(株)代表取締役副社長
「新製品開発と難加工性材料の製造技術の進歩発展」
- (6) 野呂賞
小林 稔 (株)日本サンプルプラント代表取締役
「鉄鋼標準試料の製造技術の向上に対する貢献」
佐伯 正夫 新日本製鐵(株)第一技術研究所
解析科学研究センター所長
「鉄鋼分析技術の高度化及び標準化に関する貢献」
仁科 昭 名古屋大学工学部文部技官
「本会支部活動および研究・教育活動の支援に関する貢献」
- (7) 渡辺義介記念賞
秋月 英美 川崎製鉄(株)取締役ツバロン製鉄会社出向
「製鉄技術の進歩発展」
石川 慶悟 愛知製鋼(株)取締役刈谷工場長
「特殊鋼、ステンレス形鋼の圧延技術の進歩発展と製品開発」
上村 真彦 (株)神戸製鋼所 鉄鋼事業本部生産本部

副本部長

「生産・物流管理システム及び厚板・条鋼生産技術の進歩と発展」

王寺 睦満 新日本製鐵(株)君津製鐵所副所長

「製鋼技術の進歩発展、特に高級鋼・高純度鋼の大量生産技術の確立」

小椋 徹也 新日本製鐵(株)条鋼技術部長

「条鋼技術の近代化及び新製品の開発」

小野 定雄 日本冶金工業(株) 常務取締役川崎製造所所長

「ステンレス鋼の熱間圧延技術の発展向上」

栗山 哲郎 川崎製鐵(株)取締役化学事業部副事業部長

「コークス製造技術の進歩発展」

斎藤 喜一 日本ステンレス(株)技師長

「ステンレス鋼、高合金及びチタンの溶接研究ならびに新材料開発」

副島 利行 (株)神戸製鋼所 取締役鉄鋼生産本部副本部長

「鉄鋼生産における製鋼技術の進歩と発展」

萩原 康彦 住友金属工業(株)取締役支配人

「高品質鋼板の開発と製造技術の確立」

日西 弘明 (株)中山製鋼所 取締役圧延部長

「鋼材圧延技術の進歩と製品品質の向上」

平野 治男 大同特殊鋼(株)常務取締役

「特殊鋼量産製造技術の確立」

宮川 保重 日新製鋼(株)呉製鐵所副所長

「製鉄・製鋼技術の向上発展」

宮部 隆 ナショナル スチール コーポレーション副社長

「厚鋼板製造技術の進歩発展」

森玉 直徳 新日本製鐵(株)光製鐵所副所長

「真空精錬技術の向上並びに連続鑄造技術の進歩発展」

(8) 西山記念賞

井口 義章 名古屋工業大学材料工学科教授

「鉄鉱石の還元及ぼす不純成分の影響に関する基礎的研究」

石田 清仁 東北大学工学部材料物性学科助教授

「鉄鋼材料の組織制御に関する研究」

岩館 忠雄 (株)日本製鋼所 室蘭研究所副所長

「機械・構造物材料の信頼性評価技術に関する実用化研究」

尾上 俊雄 (株)神戸製鋼所 材料研究所精錬凝固研究室長

「鉄鋼製錬スラグならびに耐火物に関する研究開発」

菊間 敏夫 新日本製鐵(株)君津技術研究部長

「鉄鋼の塑性加工と加工プロセスに関する研究」

北川 正樹 石川島播磨重工業(株)技術研究所構造物材料部部長

「鉄鋼材料のクリープ・疲労・環境の相互作用下の材料強度研究と設計への適用」

香山 晃 東京大学 工学部材料学科助教授

「原子炉・核融合炉材料の照射効果研究と材料開発」

斎藤 鉄哉 金属材料技術研究所 計測解析研究部部長

「材料の信頼性評価に関する研究」

酒井 拓 電気通信大学 電気通信学部教授

「鉄鋼の高温加工の基礎的研究」

志賀 千晃 川崎製鐵(株)鉄鋼研究所強度・接合研究室長

「制御圧延・制御冷却技術と厚鋼板の開発」

杉浦 三朗 大同特殊鋼(株)名古屋技術サービス部長

「特殊鋼の溶解・精錬に関する研究開発」

田中 淳一 日本鋼管(株)中央研究所第一研究部長

「高張力鋼、極厚鋼板の材質改善」

長野 博夫 住友金属工業(株)研究開発本部上席研究主幹

「高耐食合金の開発に関する研究」

松尾 孝 東京工業大学 工学部金属工学科助教授

「耐熱鋼及び耐熱合金の高温強化機構に関する基礎的研究」

米野 実 新日本製鐵(株)第二技術研究所主幹研究員

「鋼板の表面反応、有機材料との接着機構の研究と表面技術の開発」

1. 1. 2 H 3. 10. 1 第122回講演大会式典において表彰式を行い、下記のとおり表彰した。

(1) 浅田賞

藤田 譲 東京大学名誉教授、東京理科大学工学部教授

「溶接力学展開による鋼構造物製作技術の発展」

田島 二郎 田島橋梁構造研究所ブリッジアドバイザー

「調質高張力鋼の道路鉄道併用長大橋への適用」

(2) 俵論文賞

岡本 篤樹 住友金属工業(株)鉄鋼技術研究所

水井 直光 住友金属工業(株) "

「極低炭素Ti添加冷延鋼板の再結晶集合組織に及ぼすMnとPの影響」

小豆島 明 横浜国立大学 工学部教授

野呂 和也 大同化学工業(株)東京研究所

井柳 好貴 横浜国立大学 工学部機械工学科

出川 浩樹 横浜国立大学 "

「冷間圧延における板表面光沢の制御システムの提案」

柏谷 悦章 北海道大学 工学部金属工学科助手

石井 邦宜 北海道大学 工学部教授

「炭素の結晶・非結晶の割合を考慮したコークスガス化反応の速度解析」

林 公隆 新日本製鐵(株)鉄鋼研究所

伊藤 陽一 新日本製鐵(株) "

加藤 忠一 新日本製鐵(株) "

三吉 康彦 新日本製鐵㈱ //

「自動車用冷延鋼板の塗膜下腐食機構」

松尾 充高 新日本製鐵㈱第三技術研究所

高橋 力 新日本製鐵㈱ //

片山 裕之 新日本製鐵㈱ //

平田 浩 新日本製鐵㈱ //

小川 雄司 新日本製鐵㈱ //

「上底吹き転炉を用いた鉄鉱石の熔融還元における二次燃焼・着熱挙動と石炭原単位の関係」

(3) 澤村論文賞

中田 正之 日本鋼管㈱鉄鋼研究所

塩原 融 超電導工学研究所

M. C. Flemings マサチューセッツ工科大学教授

「Modification of solidification structures by pulse electric discharging」

田中 秀毅 東京大学 大学院工学系研究科

近藤 伸彦 東京大学 大学院工学系研究科

藤田 庫造 東京大学 工学部材料学科

柴田 浩司 東京大学 工学部助教授

「Suppression of cryogenic intergranular fracture through heat treatments and roles of boron in high manganese non-magnetic steels」

野城 清 大阪大学 工学部材料開発工学科助教授

武田 裕之 大阪大学 大学院工学研究科博士課程

荻野 和己 大阪大学 工学部教授

「Effect of applied DC voltage on the wettability of zirconia by liquid iron and strengthening of sprayed zirconia to iron」

(4) 三島賞

河部 義邦 金属材料技術研究所 力学特性研究部長

「高比強度金属材料の強靱性向上に関する研究」

林 千博 住友金属工業㈱研究開発本部技監

「鉄鋼材料の塑性加工に関する研究開発・実用化」

小指 軍夫 日本鋼管㈱ 鉄鋼研究所副所長

「熱間加工における組織制御の基礎研究とその工業化」

(5) 林賞

宇村 強一 中部鋼鉄㈱取締役名古屋製造所副所長

「厚板用鋼の大型電気炉製鋼技術の確立」

(6) 山岡賞

製錬新基盤技術研究組合 熔融還元製錬技術委員会

「フェロクロム熔融還元製錬技術の研究開発」

自動車用表面処理鋼板研究開発ワーキンググループ

「自動車用薄膜有機複合めっき鋼板の開発および適用技術の確立」

1. 2 湯川記念講演会の開催

VI. 支部に記載

1. 3 石原・浅田研究助成金の交付

次の6件の研究に対し助成金を交付。

- ① 高温下でのNMR測定によるスラグの微視的構造及び動態の研究
前川 英己 (北海道大学理学部)
- ② TiO_x系スラグの熱力学
田辺 潤 (東北大学選鉱製錬研究所)
- ③ アーク放電を用いた固体金属の電磁粉霧化
薩田 寿隆 (名古屋大学大学院工学研究科)
- ④ NaCl型複合炭窒化物の相平衡に関する熱力学的解析
大谷 博司 (東北大学工学部)
- ⑤ 液相還元法による金属超微粒子の酸化鉄微粒子表面への選択的析出とその触媒材料への応用
村松 淳司 (東北大学選鉱製錬研究所)
- ⑥ S₂O₃²⁻を含むCl⁻水溶液中におけるステンレス鋼の応用腐食割れ挙動
春名 匠 (大阪大学大学院工学研究科)

1. 4 日向方賞学術振興交付金

第16回、第17回分として受給者を下記のとおり決定。(第16回)

- ① 品川 一成 大阪大学 基礎工学部助手
小林史郎記念国際シンポジウム
1991年8月15日～17日
Palo Alto (アメリカ)
- ② 岩井 一彦 名古屋大学 工学部材料プロセス工学科大学院生
電磁流体流れのエネルギー輸送に関する国際会議
1991年9月30日～10月4日
Cadache (フランス)
- ③ 粉川 博之 東北大学 工学部材料加工工学科助教授
第44回国際溶接学会年次大会
1991年6月30日～7月5日
ハーグ (オランダ)
- (第17回)
- ① 飴山 恵 立命館大学 理工学部助手
第7回チタン国際会議
1992年6月28日～7月2日
サンディエゴ (アメリカ)
- ② 柏谷 悦章 北海道大学 工学部助手
第2回国際コークス製造会議
1992年9月28日～30日
ロンドン (イギリス)
- ③ 津崎 兼彰 京都大学 工学部助教授
マルテンサイト変態に関する国際会議
1992年7月20日～24日
モントレール (アメリカ)
- ④ 月橋 文孝 東京大学 工学部助教授
第75回製鋼国際会議、鉄鋼製造におけるスラグ技術
1992年4月5日～8日
トロント (カナダ)
- ⑤ 奥村 圭二 名古屋大学 工学部材料プロセス工

学科助手

清浄鋼

1992年6月8日～10日

Balatonszeplak (ハンガリー)

⑥ 篠原 正 東京大学 工学部講師

腐食防食の進歩

1992年6月28日～7月3日

マンチェスター (イギリス)

1. 5 浅田記念文庫の寄贈

29大学に対し、記念文庫の寄贈を行った。

1. 6 戦後技術史調査事業

1) 新設された外島健吉記念資金による事業として H 2. 4. 25の理事会の議決により、田畑新太郎委員長以下10名の委員で構成する戦後技術史調査委員会が発足。木寺 淳を幹事長とする幹事会を設置。

2) H 3. 4 施行された「表彰事業ならびに特別資金取扱規程」により本委員会は新設された育成委員会の下部機構戦後技術史調査小委員会と改称。本技術史の対象期間は、終戦後より第1次合理化計画(継続を含む)終了時期まで。

3) スケルトン

戦後復興期における日本鉄鋼技術の発展
(昭和20年より昭和30年代初頭まで)

第一部 日本鉄鋼業の戦後復興の端緒

- 第一章 生産の再開と鉄鋼業再建の指針
- 第二章 賠償問題の変遷
- 第三章 鉄鋼生産回復の足取り
- 第四章 経済諸制度の変革
- 第五章 高炉調査団・平炉調査団の派遣

第二部 鉄鋼業の自立化の努力

- 第一章 ドッジ・ラインと鉄鋼業
- 第二章 鉄鋼業の自立化方策
- 第三章 米国鉄鋼技術者の指導
- 第四章 訪米鉄鋼業調査団の派遣
- 第五章 産・官・学の共同研究体制の確立

第三部 近代化への門出

- 第一章 朝鮮動乱の勃発と鉄鋼業
- 第二章 鉄鋼業第一次合理化計画
- 第三章 第一次継続合理化計画
- 第四章 第一次合理化計画(一次継続を含む)を推進した税制措置
- 第五章 外国技術の導入と設備機械の輸入
- 第六章 第一次合理化計画(一次継続を含む)の実施による効果

終章

2. ISO幹事国事業

2. 1 ISO/TC17幹事国業務

最重点項目は第17回TC17総会の開催および新Directivesの円滑な運用

2. 1. 1 ISO規格案件の進捗状況

H 3年度中に成立したISO規格は26件、ISOテクニカ

ルレポートは2件でそれぞれ前年度比 ISO規格は17件の増、テクニカルレポートは同数。

新規作業項目16件を採用、現作業項目7件を削除。審議中の作業項目は昨年度末117件より今年度末98件と19件の減。5年毎の定期見直し28件はすべて確認の投票を受けた。

2. 1. 2 第17回TC17総会

1991. 11. 19～22 京都市国際交流会館

出席者：10か国1団体 計33名

(日、米、英、仏、伊、独、中国、韓国、ノルウェー、スウェーデン、ISO中央事務局)

議事 1) TC17/SC17幹事国

1985年以来空席であったSC17(線材および線)の幹事国を中国が引受け。

2) ISO/TC17Strategic Policy Statement

当事務局案をもとに討議し、スピードアップ対策、規格改訂の考え方等の合意を得られたが、将来作業項目については継続検討。

3) TC17の生産性

他TCに比較して劣っている規格作成期間を短縮するため長時間滞留している作業項目の処置について合意。中央事務局のEnhanced serviceをSC 1以外のSCでも積極的に活用する。

4) ISO9000シリーズのTC17用補足資料

基本規格の動きを見極めた上で再検討。

5) 遠心鑄造管の取扱い

SC11(鑄鋼)とSC19(圧力用途用管)の両方にまたがるので、SC19と緊密に連絡をとりながらSC11が担当する。

6) CEN(欧州規格委員会)とISOの協調について従来より進んだ内容となったウィーン協定の内容について中央事務局からの説明とこの協定の活用策の討議。以上の内容を含め、総計15の決議が採択

2. 1. 3 新Directivesの円滑運用のための施策

1. パソコンによる作業項目“Monitor and Analyze”システムの完成により作業項目の過去の推移、現状の把握、各Stageごとの滞留年月等のデータの統計的処理、TC17の全体像の把握を可能とした。

2. Quarterly Reportの発行

中央事務局(Council etcを含む)の動向、TC17およびTC17/SCの活動状況を伝えるQuarterly Reportを7月以降3冊作成し、TC17メンバーおよびSCsecretariatに送付。

2. 2 ISO/TC17/SC1幹事国業務

1992年6月開催予定の第14回国際会議成功のための11件のWGの支援とCD draftの完成。

2. 2. 1 ISO規格案件の進捗状況

新活動指針および中央事務局との「規格化能率向上のための特別プロジェクト」に沿ったSC1活動手順の具体的実行

(1) 前年度検討中であった17案件の進捗状況

第77回通常総会報告

- | 前年度末の stage | 今年度末の stage | |
|---------------|-------------|----------------|
| 4 | — | 3件 → ISO発行済 |
| 4 | 5 | 1件 → Proof完成 |
| 3 ('89共同実験完了) | 3 | 2件 → CDが承認された |
| 3 ('90 " 開始) | 3 | 7件 → 実験完了、CD完成 |
| 1/2('90 " 開始) | 3 | 4件 → " 、 " |
- (2) 1991年度発行されたISO規格
- ISO 10138 クローム - 原子吸光法
(1991-04-01発行)
- ISO 10280 チタン- "
(1991-05-01発行)
- TR 9769 鉄鋼の分析方法の概要
(1991-11-01発行)
- ISO 10697-1 酸可溶性カルシウム-原子吸光法
(1992-02-15発行)
- (3) 1991年度DIS登録されたCD
- CD 10702 窒素・蒸留滴定法
(1992-02-04登録)
- (4) 「規格化能率向上のための特別プロジェクト」により今年度中央事務局にて処理された案件の所要時間はproof作成期間が8ヶ月から3ヶ月、proof出版所要期間が4ヶ月から2ヶ月へと向上。
- 2.2.2 他TC/SCとの共同作業による規格作成・改訂
- (1) ISO 377-2 (分析試料の採取と調製)の改訂につきISO/TC17/SC20との共同作業を開始。ISO/TC17/SC1がコンビナーを担当。
- (2) プラズマ分光法、原子吸光法の取扱指針の規格化につきISO/TC17/SC1、ISO/TC155/SC3およびSC4、(ISO/TC102/SC2とは調整中)と共同作業を開始。ISO/TC17/SC1がコンビナーを担当
- 2.2.3 ECISS (欧州鉄鋼標準化委員会) / TC20 (分析) とのliaison強化
- ECISS/TC20は幹事国 (デンマーク) の経済的理由による弱体化で全面的にISO/TC17/SC1に依存するようになった。今年7月の所謂「ウイーン合意」によりISO/CEN担当部門間liaisonが強化され、11月ECISS/TC20の招請によりECISS/TC20会議に出席。
- ECISS/TC20における新規作業項目はISO/TC17/SC1に依頼
- (案) 酸素の定量方法、カドミウムの定量方法、極低ほう素の定量方法
- 2.2.4 ISOとJISの整合化
- (1) ISOとJISを並行審議するため、1992年のSC I 会議に提案する新規作業項目 (日本案) を検討。
- (案) 極低ほう素の定量方法、機器分析方法
- (2) 日本がコンビナーを担当している「コバルト-原子吸光法」がJISをISO化するための「提案型国際規格案件」として工技院より指定され、「調査研究委員会」及び「作業部会」を設置、それぞれ4回開催、原案審議。
- 2.2.5 WG活動 (コンビナー) 支援
- (1) 4回の海外出張を通じ、コンビナーとの接触を密にし、その活動に対し支援を行った。
- (2) WG会議の開催。
- 1991-01 プラズマ発光法ガイドライン検討WG会議 於：パリ
- (3) 国際共同実験結果の精度の統計計算
統計計算のプログラミングを改善し、計算整理を能率的な事務局一貫処理体制を整え、11WGの共同実験結果の解析を完了。
- 2.3 ISO/TC67/SC5幹事国業務
- TC67/SC5幹事国業務の引き受け後、H3年度は第1回国際会議を開催して、TC67/SC5の活動を軌道にのせることが最重点課題。
- 2.3.1 第1回TC67/SC5会議
- APIの全面的な支援により、1991年6月4日、San Diegoにて開催。
- (1) 常任議長に住友金属工業・奈良氏の指名。
- (2) TC67/SC5担当のAPI documents 7件の中、API Spec 5 CT (ケーシング、チュービング)、API Spec 5 D (ドリル・パイプ) のISO規格化を最初に取り上げるることを決定。
- (3) WG1 (フランス担当) を設置し、規格原案を作成。
- (4) 規格原案の作成はTC67/SC5 Secretariat提出の基本方針 (API規格との整合性の維持) による。
- 2.3.2 第1回会議決定事項のFollow up
- WG1の第1回会議を10月21、22日パリにおいて開催、TC67/SC5 Secretariat作成の基本方針に基づいたAPI Spec 5 CTのISO規格化原案を作成。
- 1992年2月、6月及び9月にWG1を招集し、さらに原案の審議を進める。
- 2.3.3 TC67/SC5 Pメンバーの増強
- 現在Pメンバー10か国 (ブラジル、チェコ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、オランダ、ノルウェー、英国、米国) をさらに増強すべく、中国及びカナダに参加を勧誘、中国からはすでに積極的な意志表示。
3. その他補助金等会計による事業
- 3.1 日本圧力容器研究会議
- 材料部会、施工部会、設計部会の3部会で構成、当協会は材料部会 (部会超：荒木 透) を担当。材料部会は次の4専門委員会が活動。
- 1) 非破壊試験専門委員会
- 板厚200mmの極厚鋼板による試験体No. 7により集束探触子を用いた新探傷手法開発試験を推進し、良好な結果を得た。
- 2) 圧力容器用鋼板専門委員会
- H2. 9月刊行した和文報告書に次いで共同研究テーマの英文報告書「CHARACTERIZATION OF PWHT BEHAVIOR OF 500N/mm² CLASS TMCP STEELS」を刊行し、本テーマの活動を終了、次期テ

ーマの検討を開始。

3) 水素脆化専門委員会

TG6は共同研究テーマ「C-1/2Mo鋼水素侵食材の材料評価」の実施法案の検討、試験材の準備を完了し、試験を開始。

TG7は、H2、7月に発足し、具体的共同研究テーマを決めるため、経年材質変化を生じた材料や溶接継手の水素脆化感受性を中心に文献調査。

4) データ収集委員会

H2、3月に発足。「Cr-Mo鋼の経年劣化材料データベースの構築」を行うためのデータベースシステムの基本仕様、データベースの入力項目とフォーマット、データブックの形式と内容についての検討結果を成果報告書にまとめ、引続き、実際のデータ入力のための準備およびデータブック作成をすすめた。

VI. 支 部

1. 事 業

1.1 北海道支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H3. 6. 20
 (2) 評議員会 2回開催。H3. 6. 20、11. 27
 (3) 理事会 3回開催。H3. 3. 15、9. 3、H4. 2. 13

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共 催・後 援 団 体	開 催 日	会 場	主 な 内 容
素材製造技術研究会 (第1回)	日本金属学会道支部 中央テクノポリス開発機構 苫小牧大学誘致期成会	H3.7.5	苫小牧市ホテルニュー王子	先進材料開発セミナー 特別講演4件
(第2回)	日本金属学会道支部	H4.1.29	室蘭工業大学	特別講演1件 一般講演 件
鋼材新素材研究会 (第1回)	日本金属学会道支部 中央テクノポリス開発機構 苫小牧大学誘致期成会	H3.7.5	苫小牧市ホテルニュー王子	先進材料開発セミナー 特別講演4件
(第2回)	日本金属学会道支部	H4.2.26	室蘭工業大学	特別講演1件 一般講演 件

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共 催・後 援 団 体	開 催 日	会 場	講 師 等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会道支部	H3.6.20	室蘭工業大学	切削工具の進歩と材料 神奈川大学 赤澤教授	
同 上	日本金属学会道支部	H3.11.27	北海道大学	半溶融加工技術の動向と 今後の課題 東京大学 木内教授	
春季講演大会	日本金属学会道支部	H3.6. 20-21	室蘭工業大学	特別講演1件 一般講演56件	
秋季講演大会	日本金属学会道支部	H3.11. 27-28	北海道大学	新企画講演 「粉体プロセッシング」 一般講演52件	

第77回通常総会報告

1. 2 東北支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H 3. 11. 15
- (2) 評議員会 H 3. 11. 15
- (3) 理事会 H 3. 11. 15

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
第3回難処理希少資源研究センター研究懇談会	日本金属学会東北支部 資源・素材学会東北支部(助選)鋳製錬研究会	H 3. 10. 31	東北大学選研	素材プロセッシングにおけるデータベース利用の現状
第27回鉄鋼製錬研究懇談会	資源・素材学会東北支部	H 3. 11. 14~15	東北大学選研	素材製造とエコテクノロジー
第23回溶融塩化学討論会	電気科学協会東北支部 日本化学会 日本金属学会 日本原子力学会、その他	H 3. 11. 21~22	東北大学工学部 青葉記念会館	溶融塩の構造と物性 高温化学・プラズマ化学とその応用 その他
第5回プロセス工学研究会		H 3. 12. 17	東北大学選研	

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
第28回金属関係六学協会東北支部連合シンポジウム	日本金属学会、溶接学会、日本鋳物協会、資源・素材学会各東北支部、軽金属学会東北センター	H 3. 11. 11	東北大学工学部 青葉記念会館	新潟 嵩 八田博志 大浜信一 その他	約100名
第1回地区講演会	日本金属学会東北支部	H 3. 11. 15	東北大学工学部	佐野正道 槌谷暢男	約50名
第2回地区講演会	日本金属学会東北支部	H 3. 11. 22	岩手大学工学部	水渡英昭 花田修治	約50名
湯川記念講演会		H 3. 12. 6	秋田大学鉱山岳部	佐野信雄 桑原達朗	約80名
特別講演会		H 3. 5. 10 H 3. 7. 12 H 3. 7. 19 H 3. 10. 18	東北大学工学部 東北大学工学部 東北大学青葉記念会館 岩手大学工学部	渋谷梯二 M. Ignat H. Ledbetter 斎藤 健	

1. 3 北陸支部

1) 運営関係

- (1) 総会 2回開催。H 3. 6. 28、12. 13
- (2) 評議員会 なし
- (3) 理事会 2回開催。H 3. 6. 28、12. 13

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
金沢地区研究会	日本機械学会北陸支部	H3.11.1		北陸地域における先端技術開発と材料の話題

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会 関東支部 北陸信越支部	H3. 6. 28	長岡技術科学大学	小川恵一 新宮秀夫	約120名
(本多光太郎記念 特別講演会)	(日本金属学会主催)	(H3.12.13)	(石川厚生年金会館)	(田中良平)	
支部連合学術講演会	日本金属学会北陸信越 支部	H3. 12. 13	石川厚生年金会館	研究発表会	

(3) その他事業

日本鉄鋼協会・日本金属学会 92秋季講演大会
 第一回実行委員会 (H3. 7. 18 富山大学)
 第二回実行委員会 (H3. 12. 12 富山大学)

1. 4 東海支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H3. 3. 8
 (2) 評議員会 なし
 (3) 理事会 5回

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
若手材料研究会 第4回		H3. 6. 11	名古屋市工業研究所	・金属利用の社会的評価に基づくリサイクル計画 ・自動車におけるリサイクル ・アルミニウムのリサイクル
若手材料研究会 第5回		H3. 9. 17	愛知県中小企業センター	・非調質鋼の開発動向について ・自動車用特殊鋼の開発動向について ・耐熱FRPの開発 ・材料保証学
若手材料研究会 第6回		H3. 11. 21~22	全トヨタ労連研修センター	・成層圏オゾンの破壊の化学的メカニズム
若手冶金エンジニア研究会		H3. 8. 6~7	新日本製鐵名古屋製鐵所	・非金属介在物の物理化学

第77回通常総会報告

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
特別講演会①	(金属学会主催)	H 3 . 6 . 4	名古屋大学	内野倉 國光	
特別講演会②		H 3 . 8 . 26	愛知厚生年金会館	北田 正弘	
特別講演会③		H 4 . 1 . 29	名古屋大学	井村 徹	
湯川記念講演会①		H 3 . 3 . 8	愛知県産業貿易館	戸澤 康壽	
湯川記念講演会②		H 3 . 9 . 26	名古屋大学	萬谷 志郎	
(本多光太郎記念) 講演会		(H3.11.5)	(愛知厚生年金会館)	(西澤 泰二)	
学 術 討 論 会		H 3 . 12 . 3~4	愛知厚生年金会館		
金属材料談話会		H 3 . 5 . 8	名古屋大学	Ryoichi Kikuchi	
材料プロセッシング 談話会①		H 3 . 9 . 10	名古屋大学	W. Kurz	
材料プロセッシング 談話会②		H 4 . 1 . 8	"	赫 翼成	

(3) 見学会 H 3 . 12 . 10新東工業(株) 豊川製作所, トヨタ自動車(株)田原工場

(4) 育成事業 学生による材料フォーラム H 3 . 11 . 7 名古屋工業大学

1. 5 関西支部

1) 運営関係

(1) 総会 H3. 3. 27

(2) 評議員会 2回開催。H3. 3. 27、9. 10

(3) 理事会 4回開催。H3. 3. 27、7. 9、9. 10、11. 13

(4) 各種委員会

① 企画小委員会 2回開催。H3. 5. 15、12. 17

② 学術運営小委員会 H3. 6. 25

③ 財務広報小委員会 2回開催。H3. 7. 23、11. 11

④ 材料評価セミナー運営委員会 4回開催。H3. 4. 24、5. 17、9. 6、12. 13

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
材料物性工学談話会		4回		
鉄鋼プロセス研究会		4回		
材料開発研究会		7回		
材料化学研究会		3回		
関西分析研究会		3回		

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会関西支部	H 3. 3. 27	神戸製鋼所	山元龍三郎 坂尾 弘	120名
(本多記念講演会)	(日本金属学会関西支部 主催)	(H 3. 7. 9)	(松下電器産業)	(清水謙一) (水野博之)	(80名)
湯川記念講演会	日本金属学会関西支部	H 3. 9. 10	住友ビル	田中昭二 武智 弘	150名
支 部 講 演 会	"	H 3. 11. 13	コマツ	長坂悦敬	60名
材料評価セミナー	"				
化学的評価	"	H 3. 10. 11	大阪府立大学		27名
X線回折	"	H 3. 10. 24	理学電機		25名
組織観察	"	H 3. 11. 29	兵庫県立工業技 術センター		33名
シンポジウム	日本金属学会関西、東 海支部	H 3. 5. 11	京都工繊大学	新宮秀夫他	50名
シンポジウム	日本金属学会関西、関 東支部	H 3. 5. 24	阪大産研	清水謙一 他	50名

(3) 見学会 H 3. 11. 13 コマツ大阪工場 日本金属学会関西支部共催 参加者60名

(4) その他事業(懇親会及び記念祝賀会)

① 懇親会 H3. 3. 27及びH3. 7. 9

② 日本鉄鋼協会関西支部創設52周年・日本金属学会関西支部創設50周年記念祝賀会 H 3. 9. 10

1. 6 中国四国支部

1) 運営関係

(1) 総会 H 3. 3. 20

(2) 評議員会 H 3. 8. 7

(3) 理事会 H 3. 12. 17

2) 事業関係

(1) 研究会 なし

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会支部	H 3. 3. 20	広島弥生会館	藤田廣志	50名
"	"	H 3. 7. 23	広島大学	松宮徹也	50名
学 術 講 演 会	"	H 3. 7. 23	"	森永正彦	50名

第77回通常総会報告

1. 7 九州支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H 3. 6. 7
 (2) 評議員会 H 3. 6. 7
 (3) 理事会 4回開催。 H 3. 6. 7、9. 13、H 4. 1. 27 (常任理事会)、2. 21

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
91回材料科学談話会		H 3. 5. 17	九州大学	ステンレス鋼粉末の燃結特性他1件
92回		6. 10	"	Core properties of dislocation in intermetallics
93回		7. 22	"	「電析による金属多層膜の反射電子顕微鏡(REM)観察」他1件
94回		11. 15	"	Si ₃ N ₄ とSUS304ステンレス鋼の固相接合 他1件
95回		11. 15	"	「A Modelization of Sintering In Crystalline Solids」
96回		11. 28	"	「金属多層膜の構造と物性」
97回		12. 11	熊本大学	「水中衝撃波による難焼結性粉末の高密度固化」 他2件
56回材料工学談話会		H 3. 5. 16	熊本大学	Flow and fracture in superplastic metal
57回		5. 31	九州大学	The Deformation and Fracture Characteristic of Superplastic Ceramics and Ceramic Composites
58回		8. 8	"	Fracture and Fatigue of Intermetallics, Metal Matrix Composites and Ceramic Matrix Composites
59回		11. 14	"	計算状態図の進展—その発生から現状とその将来展望
60回		11. 27	"	The Stability of Austenitic Steels with High Mn Content at Low Temperature 他1件
73回材料プロセス談話会		H 3. 5. 17	杆島農協会館	端結晶育成の熱流動解析 他1件
74回		6. 21	九州大学	九州電子金属(株)研究所見学
75回		9. 27	"	液体論と輸送的性質 他5件
76回		H 4. 1. 17	新日鐵八幡	溶融塩不均化反応による表面硬化 粉鉍石の流動層還元 他12件

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
74回 学術講演会	日本金属学会	H 3. 6. 7	九州工業大学		305名
75回 講演討論会	"	10. 18	新日鐵 八幡	松永 清 他	122名
76回 講演討論会	"	12. 6	九州大学	林 安德 他	89名
42回湯川記念講演会	"	10. 18	新日鐵 八幡	中島浩衛	122名
43回湯川記念講演会	"	12. 6	九州大学	藤田通孝	89名

2. 収支決算

収入の部

単位：(円)

科 目	合 計	北 道 道	東 北	北 陸	東 海	関 西	中国四国	九 州
本 部 補 助 金								
(基本補助金)	1,780,000	200,000	200,000	200,000	240,000	400,000	300,000	240,000
(会費補助金)	3,646,000	147,000	156,000	92,000	503,000	1,377,000	855,000	516,000
(研究補助金)	800,000	100,000	100,000	0	150,000	250,000	50,000	150,000
(湯川補助金)	1,827,010	175,583	299,745	300,000	256,542	300,000	195,140	300,000
会 費	1,059,500	0	0	0	464,500	0	595,000	0
参 加 費	1,005,800	56,000	0	0	397,800	552,000	0	0
他 団 体 分 担 金	575,000	15,000	60,000	0	0	0	0	500,000
利 子 収 入	738,809	58,547	5,869	5,244	29,183	279,532	262,846	97,588
雑 収 入	222,800	0	222,800	0	0	0	0	0
当期収入合計(A)	11,654,919	752,130	1,044,414	597,244	2,041,025	3,158,532	2,257,986	1,803,588
前期繰越収支差額(B)	15,490,727	1,290,448	134,591	202,394	2,447,280	3,911,502	5,792,839	1,711,673
収入合計(A+B)	27,145,646	2,042,578	1,179,005	799,638	4,488,305	7,070,034	8,050,825	3,515,261

支出の部

事 業 費								
研 究 会 費	1,465,224	326,734	100,000	0	120,000	630,000	48,490	240,000
講 演 会 ・ 講 習 会 費 等	2,347,361	182,285	210,000	0	1,026,709	0	0	928,367
見 学 会 費	76,088	0	0	0	76,088	0	0	0
湯川記念講演会費	1,770,902	175,583	299,745	165,000	256,542	302,406	195,140	376,486
そ の 他 事 業 費	4,220,062	0	23,610	260,000	2,236,278	612,000	1,088,174	0
事 業 費 合 計 (C)	9,879,637	684,602	633,355	425,000	3,715,617	1,544,406	1,331,804	1,544,853
管 理 費								
会 議 費	1,040,588	164,363	46,263	0	157,792	279,457	93,013	299,700
旅 費 交 通 費	218,090	6,500	12,720	0	0	144,400	54,470	0
事 務 費	1,790,377	0	296	9,456	226,524	668,000	689,000	197,101
通 信 費	383,932	19,028	32,209	12,000	115,044	133,491	72,160	0
印 刷 費	274,325	29,736	19,540	16,880	13,349	111,240	83,580	0
雑 費	377,793	2,080	12,000	4,500	51,173	49,874	258,166	0
管 理 費 合 計 (D)	4,085,105	221,707	123,028	42,836	563,882	1,386,462	1,250,389	496,801
支 出 合 計 (C + D)	13,964,742	906,309	756,383	467,836	4,279,499	2,930,868	2,582,193	2,041,654
次期繰越収支差額 (A+B)-(C+D)	13,180,904	1,136,269	422,622	331,802	208,806	4,139,166	5,468,632	1,473,607

Ⅶ. 総務事項

- 1) H 3. 5. 28、H 2 年度事業報告、収支決算報告、財産目録、H 3 年度事業計画、収支予算書および通常総会決議録を文部大臣に提出。
- 2) 理事の変更登記を東京法務局へ提出、5月21日登記完了。
- 3) 理事の変更登記を東京法務局へ提出、8月26日登記完了。
- 4) 「就業規則」「給与規程」の全面改訂および「会員団体組織規程」の一部を改訂。「石原米太郎研究資金取扱規程」を廃止し、それに伴い「表彰事業ならびに特別事業規程」および「特別資金規程」の一部を改訂。
- 5) H 3. 10. 2 の理事会議決により本会出版物の複写に係わる権利を学協会著作権協議会（以下、学著協という）に委託。〔学著協は日本工学会（本会を含む学協会83が加盟）日本歯科医学会、日本農学会の協力により設立された、著作権（複写権）集中処理システムの運用機関。学著協は更に著作権団体および出版者団体と協力して、登録著作物の複写の権利処理を行う日本複写権センターをH 3. 9. 30設立。〕
- 6) H 4 年度が4年毎の鉄鋼二次製品生産設備実態調査の年となるので、通商産業省および鉄鋼二次製品各団体の要請を受け、日本小型自動車振興会に対し機械工業振興補助金の交付を申請した。

Ⅷ. 寄付金の受入れ

- H 2 年度から募集してきた鉄鋼研究振興資金は、5億4350万円をもってH 3. 5 設定。
- H 3 年4月研究振興資金へ木下亨前副会長・専務理事から30万円受入れ。

平成3年度(自 平成3年3月1日 至 平成4年2月29日)一般会計収支計算書ならびに貸借対照表

平成3年度一般会計収支決算

支出の部		収入の部	
費目	金額(円)	費目	金額(円)
刊行事業費	271,457,093	前期繰越収支差額	44,326,648
和文会誌費	113,580,811	会費収入	661,944,898
欧文会誌費	46,651,908	会員会費	96,506,421
材料とプロセス刊行費	18,679,239	維持会費	565,438,477
その他刊行費	24,698,196	刊行事業収入	98,376,947
事業経費	67,846,939	和文会誌収入	34,355,037
調査研究事業費	181,974,386	欧文会誌収入	12,050,641
共同研究会費	31,459,893	材料とプロセス収入	22,059,325
特定基礎研究会費	48,464,338	その他収入	29,911,944
鉄鋼基礎共同研究会費	11,914,331	講演大会研修事業収入	38,850,034
標準化委員会費	7,917,441	西山テキスト収入	8,666,400
基礎研究会費	6,598,018	白石テキスト収入	1,731,908
技術調査費	3,858,267	工学セミナー収入	22,564,689
学生見学会費	5,314,065	見学会・その他収入	5,887,037
事業経費	66,448,033	国際集會事業収入	27,534,335
講演大会研修事業費	100,341,238	参加費収入	22,534,335
講演大会費	24,652,060	補助金収入	5,000,000
西山技術講座費	10,880,955	技術情報事業収入	24,276,554
白石技術講座費	3,958,030	分譲収入	7,314,192
鉄鋼工学セミナー費	21,250,176	情報サービス収入	16,962,362
支部関係費	6,376,000	鉄鋼標準試料収入	61,635,854
事業経費	33,224,017	補助金収入	9,100,000
国際集會事業費	55,440,217	雑収入	14,949,252
国際会議費	22,974,341	利子収入	14,773,367
二国間シンポジウム費	191,556	雑収入	175,885
集會事業準備費	16,186,901	繰入金収入	5,609,939
事業経費	16,087,419	西山記念資金繰入	2,266,388
技術情報事業費	98,459,712	白石記念資金繰入	2,172,598
鉄鋼標準試料費	52,353,652	創立70周年記念会計繰入	1,170,953
鉄鋼標準試料費	39,413,772		
事業経費	12,939,880		
管理費	157,282,631		
人件費	114,249,359		
一般管理費	43,033,272		
諸積立金	14,955,040		
小計	932,263,969		
次期繰越収支差額	54,340,492		
合計	986,604,461	合計	986,604,461

正味財産増減計算書

(平成4年2月29日 現在)

		(円)
前期繰越正味財産額		375,263,280
資産増加額		
当期収支差額		10,013,844
什器備品購入額		4,102,428
棚卸資産増加額		31,430,501
小計		45,546,773
資産減少額		
什器備品除却額		506,211
車輛減価償却額		543,000
什器備品減価償却額		7,386,526
小計		8,435,737
期末正味財産合計額		412,374,316

統合貸借対照表

(平成4年2月29日現在)

(単位 円)

科目	一般会計	ISO幹事国 業務会計	合計	科目	一般会計	ISO幹事国 業務会計	合計
資産の部	(594,125,396)	(14,641,818)	(608,767,214)	負債の部	(181,751,080)	(2,714,700)	(184,465,780)
現金預金	194,950,096	10,212,626	205,162,722	未払金	3,209,357		3,209,357
未収入金	11,071,208	3,038,500	14,109,708	前受会費	141,865,212		141,865,212
棚卸資産	189,440,493		189,440,493	預り金	4,123,914		4,123,914
印刷用紙	3,848,507		3,848,507	仮受金	4,217,387		4,217,387
仮払金	7,891,493		7,891,493	仮受消費税	19,810,710	2,714,700	22,525,410
立替金	834,847		834,847	未払費用引当金	8,524,500		8,524,500
委託未収金	81,620		81,620				
仮払消費税	17,413,801	1,390,692	18,804,493	正味財産の部	412,374,316	11,927,118	424,301,434
車輦	905,000		905,000	正味財産	412,374,316	11,927,118	424,301,434
什器備品	29,468,883		29,468,883	(うち当期正味財産増加額)	(37,111,036)	(3,455,932)	(40,566,968)
図書資料	946,548		946,548				
数金	66,622,900		66,622,900				
電信電話債	150,000		150,000				
積立金	40,500,000		40,500,000				
修繕積立金	30,000,000		30,000,000				
資産合計	594,125,396	14,641,818	608,767,214	負債及び正味財産合計	594,125,396	14,641,818	608,767,214

(注) 平成4年度より「一般会計」と「ISO幹事国業務会計」を統合するので合計表とした

平成3年度(自平成3年3月1日 至 平成4年2月29日)別途資金収支計算書ならびに貸借対照表

収支計算書

貸借対照表

資金別	支出の部		収入の部	
	費目	金額(円)	費目	金額(円)
表彰ならびに 事業資金 (4,802万円)	表彰費 次期繰越	1,962,875 71,140,741	前期繰越 石原資金繰入金 利子収入 雑収入	60,612,781 8,232,933 4,227,319 30,583
	合計	73,103,616	合計	73,103,616
渡辺義介 記念資金 (1,000万円)	表彰費 次期繰越 合計	278,537 15,257,869 15,536,406	前期繰越 前利子収入 合計	14,502,042 1,034,364 15,536,406
西山弥太郎 記念資金 (5,000万円)	表彰費 技術講座へ繰出 次期繰越 合計	278,537 2,266,388 50,850,527 53,395,452	前期繰越 前利子収入 合計	50,305,441 3,090,011 53,395,452
湯川正夫 記念資金	記念講演会費(支部) 次期繰越 合計	1,827,010 52,251,723 54,078,733	前期繰越 前利子収入 合計	50,472,087 3,606,646 54,078,733
浅田長平 記念資金 (5,000万円)	表彰費 浅田記念文庫費 研究助成金 次期繰越 合計	967,058 846,510 1,500,000 50,150,793 53,464,361	前期繰越 前利子収入 合計	49,731,908 3,732,453 53,464,361
石原米太郎 研究資金 (1,000万円)	研究助成金 表彰・事業資金へ繰出 合計	1,500,000 8,232,933 9,732,933	前期繰越 前利子収入 合計	9,008,095 724,838 9,732,933
三島徳七 記念資金 (613万円)	表彰費 次期繰越 合計	521,352 8,567,765 9,089,117	前期繰越 前利子収入 合計	8,520,250 568,867 9,089,117
林達夫 記念資金 (500万円)	表彰費 次期繰越 合計	312,185 6,615,693 6,927,878	前期繰越 前利子収入 合計	6,474,274 453,604 6,927,878
白石元治郎 記念資金 (5,000万円)	記念講座費 一般会計へ繰出 次期繰越 合計	2,172,598 57,393,628 59,566,226	前期繰越 前利子収入 合計	56,409,407 3,156,819 59,566,226
日向方齊学術 振興資金 (6,000万円)	学術振興費 次期繰越 合計	4,059,969 61,083,460 61,083,460	前期繰越 前利子収入 合計	58,352,579 2,730,881 61,083,460
研究振興資金	次期繰越 合計	4,234,031 4,234,031	前期繰越 前付金収入 前利子収入 合計	3,661,006 300,000 273,025 4,234,031
外島健吉 記念資金 (10,000万円)	出版準備費 次期繰越 合計	4,071,861 107,725,846 111,797,707	前期繰越 前利子収入 合計	104,512,806 7,284,901 111,797,707
鉄鋼研究 振興資金 (54,350万円)	委員会費 次期繰越 合計	90,293 572,010,875 572,101,168	前期繰越 前付金収入 前利子収入 合計	8,000,000 535,500,000 28,601,168 572,101,168
基本金	次期繰越 合計	10,477,556 10,477,556	前期繰越 前利子収入 合計	9,772,128 705,428 10,477,556
退職金積立金	退職金 次期繰越 合計	33,971,000 91,968,136 125,939,136	前期繰越 前本年度積立 前利子収入 合計	108,630,553 10,000,000 7,308,583 125,939,136
退職年金積立金	退職年金 退職一時金 次期繰越 合計	188,600 4,594,400 135,067,679 139,850,679	前期繰越 前本年度積立 前加入者負担 前利子収入 合計	123,149,056 5,823,180 2,199,868 8,678,575 139,850,679
厚生資金積立金	次期繰越 合計	33,947,857 33,947,857	前期繰越 前利子収入 合計	31,956,820 1,991,037 33,947,857
会館資金積立金	次期繰越 合計	20,448,867 20,448,867	前期繰越 前利子収入 合計	19,072,122 1,376,745 20,448,867
国際会議積立金	次期繰越 合計	50,393,381 50,393,381	前期繰越 前利子収入 合計	45,838,833 4,554,548 50,393,381
創立70周年記念 事業会計	一般会計へ繰出 合計	1,170,953 1,170,953	前期繰越 前利子収入 合計	1,044,516 126,437 1,170,953

注：鉄鋼研究振興資金は鉄鋼各社からの寄付金である。

資産の部		負債の部	
費目	金額(円)	費目	金額(円)
信託預金 銀行預金 桐箱預金 仮払消費税 合計	70,635,615 16,754 445,370 43,110 71,140,849	仮受消費税 表彰ならびに事業資金 合計	108 71,140,741 71,140,849
信託預金 銀行預金 仮払消費税 合計	14,055,546 1,193,968 8,355 15,257,869	渡辺義介記念資金 合計	15,257,869 15,257,869
信託預金 銀行預金 公社債 仮払消費税 合計	19,354,678 1,487,488 30,000,000 8,361 50,850,527	西山弥太郎記念資金 合計	50,850,527 50,850,527
信託預金 銀行預金 公社債 合計	46,187,859 1,063,864 5,000,000 52,251,723	湯川正夫記念資金 合計	52,251,723 52,251,723
信託預金 公社債 仮払消費税 合計	16,406,528 35,000,000 29,167 51,435,695	仮受金 浅田長平記念資金 合計	1,284,902 50,150,793 51,435,695
信託預金 銀行預金 仮払消費税 合計	8,295,880 241,144 24,102 8,567,765	三島徳七記念資金 合計	8,567,765 8,567,765
信託預金 銀行預金 仮払消費税 合計	6,300,000 315,329 364 6,615,693	林達夫記念資金 合計	6,615,693 6,615,693
信託預金 公社債 仮払消費税 合計	7,393,439 50,000,000 189 57,393,628	白石元治郎記念資金 合計	57,393,628 57,393,628
信託預金 銀行預金 公社債 仮払消費税 合計	2,055,887 5,005,833 49,961,500 271 57,023,491	日向方齊学術振興資金 合計	57,023,491 57,023,491
信託預金 銀行預金 公社債 合計	4,234,031 57,697,249 50,000,000 28,597 107,725,846	研究振興資金 外島健吉記念資金 合計	4,234,031 107,725,846 107,725,846
銀行預金 公社債 仮払消費税 合計	27,858,169 544,150,000 2,706 572,010,875	鉄鋼研究振興資金 合計	572,010,875 572,010,875
信託預金 信託預金 銀行預金 仮払 合計	10,477,556 92,168,800 3,802 1,534 92,174,136	基本金 仮受金 退職金積立金 合計	10,477,556 206,000 91,968,136 92,174,136
信託預金 銀行預金 合計	135,871,101 196,578 136,067,679	仮受年金積立金 合計	1,000,000 135,067,679 136,067,679
信託預金 貸付金 合計	33,656,857 291,000 33,947,857	厚生資金積立金 合計	33,947,857 33,947,857
信託預金 信託預金	20,448,867 50,393,381	会館資金積立金 国際会議積立金	20,448,867 50,393,381

平成3年度(自平成3年3月1日 至 平成4年2月29日)補助金等事業会計

収支計算書

貸借対照表

会計別	支出の部		収入の部	
	費目	金額(円)	費目	金額(円)
ISO幹事国 業務会計	管理費	51,727,381	前期繰越金	8,471,186
	事業費	38,173,773	繰入金	90,490,000
	次期繰越金	11,927,118	補助金	2,535,694
	合計	101,828,272	利子収入	331,392
			合計	101,828,272
日本压力容器 研究会会計	事業費	4,463,885	前期繰越金	15,385,386
	次期繰越金	16,842,953	分担金	5,337,468
	合計	21,306,838	雑収入	67,962
			利子収入	516,022
			合計	21,306,838
ISO鉄鋼 部会会計	事業費	1,906,871	前期繰越金	180,883
	次期繰越金	57,197	繰入金	98,032
	合計	1,964,068	補助金	1,671,934
			利子収入	13,219
			合計	1,964,068
新環境 統合都市 研究事業会計	事業費	308,202	受託金	307,776
	合計	308,202	利子収入	426
			合計	308,202
鉄鋼基礎共同 研究会会計	運営委員会費	455,985	日本鉄鋼協会	11,914,331
	界面移動現象部会		より繰入金	
	運営費	968,688	日本金属学会	750,000
	結晶粒超微細部会		分担金	
	運営費	102,400	日本学術振興会	200,000
	複合材料部会		分担金	
	運営費	512,036		
	変形特性部会			
	特別研究費	2,318,450		
	運営費	1,877,363		
	特別研究費	2,398,528		
	表面高機能化部会			
	運営費	576,518		
	特別研究費	2,436,797		
	循環性元素分離部会			
運営費	1,217,566			
合計	12,864,331	合計	12,864,331	

会計別	資産の部		負債の部	
	費目	金額(円)	費目	金額(円)
ISO幹事国 業務会計	銀行預金	10,212,626	仮受消費税	2,714,700
	未収入金	3,038,500	次期繰越金	11,927,118
	仮払消費税	1,390,692	合計	14,641,818
	合計	14,641,818		
日本压力容器 研究会会計	銀行預金	9,847,632	仮受消費税	149,173
	信託預金	6,311,336	次期繰越金	16,842,953
	未収入金	332,412	合計	16,992,126
	仮払消費税	393,347		
	仮払消費税	107,399		
	合計	16,992,126		
ISO鉄鋼部会 会計	仮払消費税	57,197	次期繰越金	57,197
新環境 統合都市 研究事業会計	銀行預金	32,996	仮受金	350,000
	未収入金	307,776	合計	350,000
	仮払消費税	9,228		
	合計	350,000		

平成4年度（平成4年3月1日から平成5年2月28日まで）事業計画

平成4年度に行う事業のうち特記事項をあげると次のとおりである。

1. 本会の周辺領域活動の企画・推進を目的として境界領域委員会を発足。
2. 「鉄と鋼」および「材料とプロセス」を平成5年よりA4判に変更。
3. 「鉄と鋼」のISIJ情報ネットワークを年3回支部編集とし、その第1回を平成5年1月号より開始。
4. 名簿管理のためのシステム構築を開始。
5. 育成委員会の新事業として「高校理科教育担当教諭との技術教育協議会」および「最新鉄鋼技術の出版」を推進。
6. 「第4回溶融スラグとフラックスに関する国際会議」、「第5回日本・ノルディック諸国シンポジウム」、「第6回日本・中国鉄鋼学術会議」を開催。
7. 共同研究会
 - (1) 計測制御部会と設備技術部会電気設備分科会を統合して制御技術部会とし、3分科会を設置。
 - (2) 耐火物部会主催で日独技術交流会を京都で開催。
 - (3) 圧延理論部会理論解析研究小委員会および鉄鋼分析部会鋼中微量炭素定量研究小委員会の発足。
8. 特定基礎研究会
 - (1) 表面処理鋼板における界面化合物部会（仮称）およびステンレス鋼の耐候性部会（仮称）の2部会の発足。
 - (2) 充填層中の気固液移動現象部会シンポジウム開催。
9. 基礎研究会
 - (1) 耐火物組織評価研究部会（仮称）および低合金鋼の疲労強度向上研究部会（仮称）の2研究部会の発足。
 - (2) ベイナイト調査研究部会がベイナイト組織写真集を刊行。
10. 鉄鋼基礎共同研究会
鉄鋼の超強靱化部会（仮称）の発足。
11. 第7回理工系学生のための研究所・製鉄所見学会
今回から見学会参加学生の交通費は受け入れ企業の負担とした上で、一般会計の事業として毎年開催することとし、平成4年度は3月16日～19日の4日間、全国19会場（2増、1減）で開催。
12. 平成3年度の鉄鋼技術情報センター運営委員会の報告書にもとづく改善策として、図書室レイアウトの変更ならびにプロシーディングス収集増強に伴う新収集方法の策定と実行、掲載文献のデータベースの構築および利用システムの設置。
13. 第14回ISO/TC17/SC1国際会議を6月15日より5日間ロンドンにて開催。
第2回ISO/TC67/SC5国際会議を9月日本にて開催予定。
14. 鉄鋼の分析技術向上と標準化について国際的な連帯を強化しISO活動をバックアップするため、わが国の指導により第1回国際鉄鋼分析委員会を6月21日イギリスにて開催。
15. ISOとJISの整合化に向けて、標準室とISO事務局の統合により、鉄鋼標準化センターを設立し、標準化事業部門の体制強化。
16. 一般表彰に、外部助成金等の受入れによる事業として、(財)里見奨学会の助成金による里見賞（金属の表面処理に関する顕著な業績を挙げた会員および共同研究者）を新設し、秋季講演大会時に表彰する。
17. 一般表彰に、表彰ならびに事業資金による事業として、日本鉄鋼協会・日本金属学会奨学賞（材料工学ならびにその周辺の関連分野における学科の当該年度の卒業予定者のうち人格・学業ともに優秀な者）を新設し、平成5年以降毎年3月に表彰する。

目 次

I. 会 議	N352	IV. 特別会計による事業	N361
II. 会 員	N355	1. 特別資金会計による事業	N361
III. 一般会計による事業	N355	1. 1 表 彰	N361
1. 刊行事業	N355	1. 2 湯川記念講演会	N361
1. 1 鉄と鋼	N355	1. 3 石原・浅田研究助成金	N361
1. 2 ISIJ International	N355	1. 4 日向方齋学術振興交付金	N361
1. 3 材料とプロセス	N355	1. 5 浅田記念文庫	N361
1. 4 図書の刊行	N355	1. 6 戦後技術史調査事業	N361
2. 講演大会事業	N355	1. 7 鉄鋼研究振興助成金	N361
3. 育成事業	N355	2. その他補助金等会計による事業	N361
3. 1 技術教育協議会	N355	2. 1 鉄鋼二次製品生産設備実態調査	N361
3. 2 最新鉄鋼技術の図書の出版	N355	2. 2 日本圧力容器研究会議	N362
3. 3 西山記念技術講座	N356	V. 支 部	N362
3. 4 白石記念講座	N356	1. 事 業		
3. 5 鉄鋼工学セミナー	N356	1. 1 北海道支部	N362
3. 6 学生見学会	N356	1. 2 東北支部	N363
4. 国際交流事業	N356	1. 3 北 陸支部	N363
4. 1 国際会議	N356	1. 4 東 海支部	N364
4. 2 二国間シンポジウム	N356	1. 5 関 西支部	N365
5. 技術調査・研究事業	N356	1. 6 中国四国支部	N366
5. 1 共同研究会	N356	1. 7 九 州支部	N366
5. 2 特定基礎研究会	N358	2. 収支予算	N367
5. 3 基礎研究会	N358	VI. 平成4年度収支予算	N368
5. 4 鉄鋼基礎共同研究会	N359			
6. 鉄鋼技術情報事業	N359			
6. 1 図書・資料事業	N359			
6. 2 情報業務事業	N359			
6. 3 著作物等の分譲	N359			
7. 鉄鋼標準化センター事業	N359			
7. 1 標準化事業	N359			
7. 2 ISO幹事国事業	N359			
7. 3 鉄鋼標準試料事業	N361			

平成4年度 事業計画

I. 会 議

会議名	開催回数	開催月(予定)	議 案
通常総会	1	4月	平成3年度事業報告、収支決算、財産目録 平成4年度事業計画、収支予算、理事、監事、 評議員選挙等
評議員会	1	7月、5年2月	平成3年度事業報告、収支決算、財産目録 平成4年度事業計画、収支予算、次期役員候補 推薦、役員補欠選挙
理事会	8	4月(3回)、6月、7月、10月、 12月、5年2月	月次事業報告、会計報告、緊急事業計画委員 会設置、評議員会、総会提出議案の決定、表 彰者決定等
特別資金運営委員会	1	5年1月	特別資金ならびに支出審議
次期役員・名誉会員 候補選考委員会	3	10月、12月、5年1月	協会役員候補・名誉会員候補選定
一般表彰選考委員会	2	8月、5年1月	協会の一般表彰各賞候補選定
委員長会議		随時	事業運営の基本方針に関する事項
支部長会議	2	4月、10月	支部運営
企画委員会	8	4月、6月、7月、9月、11月、 12月、5年1月、2月	事業計画、定款諸規程の変更立案、予算決定 等
庶務分科会	3	7月、11月、5年2月	諸規程の変更立案
会計分科会	7	3月、6月、9月、11月、12月、 5年1月、2月	予算決算、補助金の処置
表彰奨励推薦分科会	3	4月、7月、11月	他の学協会からの依頼による表彰奨励の推薦
境界領域委員会		未 定	下部組織の構成およびその活動の検討
編集委員会	6	4月、7月、9月、11月、5年1 月、2月	会誌編集方針の決定、講演大会方針の決定、 依・澤村各論文賞の選考、編集委員構成検討
和文会誌分科会	11	8月を除く毎月1回	「鉄と鋼」の編集
欧文会誌分科会	11	8月を除く毎月1回	「ISIJ Internationl」の編集
講演大会分科会	6	隔月	講演大会、討論会の企画、実施、「材料とプロ セス」の編集
依論文賞選考小委員会	3	3月、4月、5月	依論文賞の選考
澤村論文賞選考小委員会	3	3月、4月、5月	澤村論文賞の選考
機械翻訳検討小委員会	2	5月、12月	機械翻訳のための英文辞書の充実と、その利 用方法の確立

会議名	開催回数	開催月(予定)	議案
育成委員会	3	4月、9月、12月	育成事業の検討、決定
企画小委員会	4	3月、6月、9月、12月	育成事業の企画、立案
知的財小委員会	4	未定	最新鉄鋼技術の出版
技術講座小委員会	6	隔月	西山記念技術講座、白石記念講座の企画、実施
鉄鋼工学セミナー 小委員会	6	5月、6月、9月、11月、5年1月、2月	第18回セミナーの実施、第19回セミナーの企画
日向方齋学術振興 交付金選考分科会	2	4月、10月	交付金受領者の選考
戦後技術史調査小委員会	4		調査報告書のまとめ
学生見学会実行分科会	4	5月、8月、10月、5年2月	学生見学会(第8回)の計画・立案・実施
国際交流委員会	4	4月、7月、10月、5年1月	国際交流活動の企画・立案・推進
第4回溶融スラグと フラックスに関する 国際会議組織委員会	3	3月、5月、7月	会議運営、フルペーパー審査、プロシーディングス作成
材料設計およびプロセス 工学へのコンピューター 利用に関する国際会議 組織委員会	2	11月、5年2月	アブストラクト審査サードサーキュラー検討
製鉄分野国際会議組 織委員会	3	4月、6月、10月	企画・立案、1stサーキュラーの検討等
材料電磁プロセシ ング国際会議組織委員 会	3	5月、7月、11月	企画・立案、1stサーキュラーの検討等
第5回日本・ノルデ イック諸国シンポジ ウム組織委員会	3	3月、6月、8月	論文交換、派遣団員決定
第6回日本・中国鉄鋼 学術会議組織委員会	2	6月、9月	プログラム編成、論文交換、プロシーディングス作成、会議運営
第8回日本・ドイツ シンポジウム組織委 員会	1	11月	企画・立案・推進
研究委員会	6	隔月	本会の研究業務の企画および調整
研究テーマ小委員会	3	11月、5年1月、3月	主要技術課題の募集・整理・公開、研究テーマの公募・整理・選定・公開
研究環境実態 調査小委員会	4	未定	大学及び企業研究者の研究環境の実態調査
将来研究課題小委員会	2	4月、7月	鉄鋼業の将来研究課題の探索
海洋材料小委員会	2	6月、12月	海洋材料開発に関する調査・情報交換
科研費研究分科会	2	4月、8月	科研費に関する調査・提言
鉄鋼研究振興 助成金選考委員会	2	3月、11月	助成テーマの募集・選考
国際鉄鋼技術委員会	6	未定	IISI東京総会でのパネル討議に関する調査等

第77回通常総会報告

会議名	開催回数	開催月(予定)	議案
鉄鋼技術情報センター 運営委員会	2	6月、10月	鉄鋼技術情報センター運営に関する件
図書館小委員会	4	4月、7月、10月、1月	図書・資料室の運営に関する件
プロシーディングス 小委員会	4	4月、7月、10月、1月	国際会議プロシーディングスの収集増強に関する件 国際会議プロシーディングス掲載文献のデータベース化に関する件
情報管理研究部会	4	3月、5月、9月、11月	シンポジウム、見学会、講演会
鉄鋼標準化センター 運営委員会	3	3月、9月、12月	鉄鋼標準化センター、事業計画、予算決算
TC17 諮問部会	3	3月、8月、5年2月	TC17/EC会議の議題検討
TC17/SC1 諮問部会	5~6	随時	規格案件等
TC67/SC5 諮問部会	6	随時	規格案件等
標準化委員会	2	4月、12月	分科会報告の審議とJIS原案及び協会規格の承認
企画小委員会	4	随時	各分科会にまたがる事項についての審議
基本・通則分科会	2	"	基本通則に関するJIS原案、ISO規格原案審議
構造用鋼分科会	4	"	構造用鋼 " "
圧力容器用鋼分科会	2	"	圧力容器用鋼 " "
薄鋼板分科会	4	"	薄鋼板 " "
熱処理用鋼分科会	4	"	熱処理鋼 " "
鋼管分科会	4	"	鋼管 " "
線材分科会	2	"	線材 " "
銅質試験分科会	2	"	銅質判定 " "
鉄鋼分析分科会	5	"	鉄鋼分析 " "
機械試験分科会	4	"	機械試験方法 " "
油井用鋼管分科会	4	"	油井用鋼管 " "
データシート分科会	1	"	データの収集、解析
鉄鋼標準試料委員会	1	3月	需要家のニーズに沿った標準試料の更新及び将来のニーズに即した新製品(特に超高純度鉄)の開発、事業の効率化(一部業務の外部委託)並びに国際化に対応する事業運営に関する審議
運営部会	4	3月、6月、9月、12月	製造計画、標準値の決定

II. 会 員

1. 会員へのサービス向上を目的とした会員管理システムの開発
2. 会員団体制度の活用の検討
3. 会員増キャンペーン(500名の会員増を目標とする)

III. 一般会計による事業

1. 刊行事業

1. 1 鉄と鋼

Vol. 78、No. 3～Vol. 79、No. 2 12冊刊行
特集号：No.7「製鉄プロセスにおける現象とモデル化」

1. 2 ISIJ International

Vol. 32、No. 3～Vol. 33、No. 2 12冊刊行
特集号：①Recent Advances in Modelling on

Microstructural Evolution and Properties of Steels (No. 3), ②Melting, Refining and Solidification of Rare Metals and Their Alloys, and Superalloys (No. 5), ③High Performance Composite Materials-Processing, Properties, and Application (No. 7), ④Molten Slags and Fluxes ('93, No. 1)

1. 3 材料とプロセス

Vol.5、No.1、No.4 (高温物理化学・プロセス、製鉄、製鉄・製鋼共通、製鋼)

No.2、No.5 (計測・制御・システム技術、分析評価、解析技術、加工・鋼構造、表面技術、萌芽・境界領域)

No.3、No.6 (材料の組織・性質)

以上6冊発行。

1. 4 図書の刊行

次の6点の図書の刊行および図書目録(4月)の発行。

①充墳層中の気・固・液移動現象部会報告、②非破壊検査テキスト(RT)、③同(PT)、④同(条鋼UT)、⑤鉄基複合材料部会報告、⑥材料データベースにおけるデータ評価モデル

2. 講演大会事業

行 事	開 催 期 日	場 所
第123回(春季) 講演大会 懇親会 ジュニアパーティ	H4. 4. 1(水)～3(金) 4. 1(水) 4. 2(木)	千葉工業大学津田沼キャンパス ザ・クレストホテル津田沼 学内食堂
第124回(秋季) 講演大会 懇親会 ジュニアパーティ 見学会 婦人見学会	H4. 10. 6(火)～8(木) 10. 6(火) 10. 7(水) 10. 8(金)	富山大学五福キャンパス

3. 育成事業

3. 1 技術教育協議会

高等学校理数系教諭の鉄鋼所見学と鉄鋼技術者との懇談会を催し、鉄鋼業が科学と技術を壮大に有機的に結びつけて成り立っている産業であることを理解してもらうことにより、高等学校教育の中に技術を少しでも取り入れてもらい、次代の若者に技術への関心を持たせることを目的とする。本年は、試行として、宮城県、福島県、山形県の3県の理数系教諭を対象とし、東北支部を企画運営母体として、夏休みの時期に実施。

3. 2 最新鉄鋼技術に関する図書の出版

鉄鋼協会に蓄積されている知的財産と、会員の有する鉄鋼科学技術の先端的学識経験を結びつけ活用することにより、鉄鋼先端技術の体系化・客観化・科学化をはかることを目的とし、本年度から事業に着手。3テーマ程度を選び、それぞれ第一級の執筆者にお願いして、順次シリーズとして刊行。

第77回通常総会報告

行 事	開 催 期 日	テ ー マ 等
3.3 西山記念技術講座	第143回 H4. 5. 14~15 (東京)	最近の高純度鋼溶製技術の進歩
	第144回 5. 28~29 (大阪)	〃
	第145回 11. 25~26 (東京)	鉄鋼業における耐火物の役割
	第146回 H5. 2	未定
3.4 白石記念講座	第22回 H4. 6. 18 (東京)	新しい加工・成形・プロセッシング技術
	第23回 11. 27 (東京)	資源リサイクルの現状と将来
3.5 鉄鋼工学セミナー	第18回 H4. 7. 25~31 (蔵王町)	
3.6 学生見学会	第7回 H4. 3. 16~19日	(全国13企業、19会場)

4. 国際交流事業

4.1 国際会議

第4回溶融スラグとフラックスに関する国際会議をH4. 6. 8~6. 11に仙台国際センターで開催予定。

H5に開催予定の材料設計およびプロセス工学へのコンピューター利用に関する国際会議につき、2nd Circularを発行、論文(アブストラクト)を募集。

H6に開催予定の材料電磁プロセッシング国際会議および製鉄分野国際会議では組織委員会が、1st Circularの発行等具体的な準備業務を開始。

4.2 二国間シンポジウム

第5回日本・ノルディック諸国シンポジウムをH4. 9ヘルシンキで、第6回日本・中国鉄鋼学会会議をH4. 11千葉市で各々開催する予定。

H5開催の日本・ドイツセミナーの準備。

5. 技術調査・研究事業

委員会・部会名	開催回数	開催月(場所)〈予定〉	研究テーマ・その他
5.1 共同研究会 運営委員会 総務幹事会	2	6月、12月(東京)	共同研究会の運営方針の決定
	2	5月、11月(東京)	共同研究会の運営に関する情報交換
製 鉄 部 会	2	6月(日新・呉) 11月(神鋼・加古川)	研究発表(共通・自由議題)・新設改修報告 研究発表(共通・自由議題)・新設改修報告
コ ー ク ス 部 会	2	5月(住金・鹿島)11月(三井鉱山)	研究発表(共通・自由議題)・操業データの交換
製 鋼 部 会	2	3月(新日鐵・広畑、山特・本社) 9月(川鉄・千葉)	重点テーマ「精錬工程における機械化・自動化技術の現状と将来」 重点テーマ「未定」
電 気 炉 部 会	2	5月(中部鋼板・名古屋) 11月(東洋製鋼・石岡)	共通テーマ 未定 共通テーマ 未定
特 殊 鋼 部 会	2	3月(神鋼・神戸) 9月(大同・渋川)	共通テーマ「タンディッシュにおける熱付与技術について」 共通テーマ 未定

委員会・部会名	開催回数	開催月(場所)〈予定〉	研究テーマ・その他
鋼板部会 分塊分科会	2	5月(神鋼・神戸)	共通議題 条部門「分塊工程での品質造込み実績」 板部門「板部門の連铸化とスラブ手入状況」
厚板分科会	2	11月(住金・小倉) 6月(神鋼・加古川) 11月(NKK・福山)	共通議題「未定」 メインテーマ「TMCP(DQを含む)」 メインテーマ「要員対応からみた厚板の現状と将来」
ホットストリップ分科会	2	6月(日新・呉) 11月(新日鐵・名古屋)	共通テーマ「作業率向上」 共通テーマ「未定」
コールドストリップ分科会	2	6月(川鉄・千葉) 12月(NKK・福山)	共通テーマ「梱包」 共通テーマ「未定」
垂鉛めっき鋼板部会	2	7月(川鉄・水島) 5年1月(新日鐵・君津)	共通テーマ「未定」 共通テーマ「未定」
条鋼部会 大形分科会	2	6月(川鉄・水島/大和電機) 11月(大阪製鐵)	共通テーマ「寸法精度工場対策」 共通テーマ「未定」
中小形分科会	2	6月(合同・大阪/中山製鋼、大阪製鐵) 11月(NKK・福山)	共通テーマ A-Gr「品質保証体制」 B-Gr「設備保全体制」 共通テーマ「未定」
線材分科会	2	6月(川鉄・水島) 11月(愛知・知多)	共通テーマ「ロール組替について」 共通テーマ「未定」
鋼管部会	2	5月(NKK・京浜) 10月(住金・鹿島/トーア)	共通議題「21世紀の鋼管製造プロセスとその課題PART-II」 未定
継目無鋼管分科会	1	12月(住金・大阪本社)	冷間加工技術、自動化・省力化、ローリングスケジュール等
溶接鋼管分科会	1	11月(新日鐵・本社)	未定
高級ラインパイプ専門委員会	2	未定	
圧延理論部会	2	6月(東洋鋼鉄・下松) 11月(新日鐵)	共通テーマ「未定」 共通テーマ「未定」
熱経済技術部会	2	6月(新日鐵・大分) 11月(神鋼・神戸)	特別講演
耐火物部会	2	6月(NKK・福山) 11月(住金・和歌山)	共通テーマ「未定」 共通テーマ「未定」
制御技術部会	3	未定	研究発表
品質管理部会	2	7月(日新・呉) 12月(新日鐵・君津)	研究発表(共通議題)、アンケート 研究発表(共通議題)、アンケート
機械試験小委員会	2	6月(新日鐵・名古屋) 11月(神鋼・神戸)	WG報告、研究報告 WG報告、研究報告
非破壊検査小委員会	2	3月(川鉄・水島) 9月(日鋼・室蘭)	WG報告、研究報告 WG報告、研究報告
運輸部会	1	11月(住金・和歌山)	「一貫輸送と2000年の輸送のあり方」
調査部会	2	未定	活動状況報告・討議

第77回通常総会報告

委員会・部会名	開催回数	開催月（場所）〈予定〉	研究テーマ・その他
鉄鋼分析部会	1	11月（合鐵・大阪、中山・本社）	活動状況報告・討議
化学分析分科会	2	6月（東京） 11月（部会に同じ）	WG報告・研究発表・討議 "
機器分析分科会	2	5月（東京） 11月（部会に同じ）	WG報告・研究発表・討議 "
表面分析小委員会	2	5月、9月、12月、5年2月（東京）	研究テーマ（4件）の共同試験結果の検討
析出物分析小委員会	4	5月、8月、10月、5年2月（東京）	微細析出物の物理分析手法を噛み合わせた抽出分離定量技術の検討
鋼中微量炭素定量法研究小委員会	4	5月、8月、12月、5年2月（東京）	鋼中微量炭素（1～50ppm）の定量方法の検討
設備技術部会 銑鋼設備分科会 圧延設備分科会	2 2	5月（日新・呉） 11月（中山、合鐵） 5月（NKK・福山） 11月（IHI・横浜）	研究発表（共通・自由議題）、アンケート、設備稼動状況 「溶融亜鉛めっきラインの設備技術」 「未定」
5.2 特定基礎研究会 運営委員会	2	6月、12月	企画、運営、調整
充填層中の気固液移動現象部会	1	9月	最終報告書・シンポジウム開催
材料電磁プロセッシング部会	3	5月、8月、10月（東京）	電・磁界の材料処理への利用に関する基礎研究、部会報告書作成
コークス製造のための乾留制御部会	3	未定	研究報告
鉄鋼の初期凝固研究部会	3	6月、10月、2月	鉄鋼鑄片表面性状を制御、向上させるための凝固現象の解明、研究報告
高純度Fe-Cr合金研究部会	3	4月、8月、12月	合金の諸特性に及ぼす微量添加元素の影響に関する研究
5.3 基礎研究会 運営委員会	2	6月、12月	企画、運営、調整
熱プラズマ研究部会	3	5月、7月、10月（東京）	イオン・プラズマ利用材料処理の基礎研究、部会報告書作成
ベイナイト調査研究部会	4	3月、6月、10月、5年1月	低炭素系鋼のベイナイト（ないし類似）組織の金相学的認識・判定とターミノロジイ等に関する研究討議
VAMAS材料評価部会	2	6月、12月	材料データ評価モデルによるソフトウェアの開発
耐熱強靱チタン研究部会	4	3月、6月、9月、12月	チタン合金及びチタン系素材に関する研究
組織制御と性質研究部会	4	4月、7月、10月、5年1月	鉄鋼の組織制御と性質に関する研究
極低炭素鋼板研究部会	3	4月、7月、10月（東京）	希薄合金中の析出反応と材料特性に関する研究、部会報告書作成

委員会・部会名	開催回数	開催月（場所）〈予定〉	研究テーマ・その他
圧延ロール研究部会	2	7月、12月（東京）	・熱間圧延におけるロール摩耗、 ・ステンレス冷間圧延の表面性状
マイクロ組織センサー研究部会	4	5月、8月、11月、5年2月（東京）	・標準サンプルによる粒径の各計測手法による基礎データ収集
鉄鋼業における炭酸ガス抑制対策研究部会	5	未定（東京）	・研究報告
5.4 鉄鋼基礎共同研究会運営委員会	2	6月、12月（東京）	企画、運営、調整
鉄基複合材料部会	3	未定（東京）	研究発表
変形特性の予測と制御部会	3	5月、10月、5年2月（東京）	研究発表
表面高機能化部会	4	5月、7月、10月、5年1月	研究発表
循環性元素分離部会	3	5月、10月、5年1月（東京）	鋼中のトランプエレメント（特にCu、Snなど）除去に関する基礎研究

6. 鉄鋼技術情報事業

6.1 図書・資料事業

- 1) 国際会議プロシーディングス収集資料件数を3倍増に強化。
- 2) 国際会議プロシーディングス利用拡大のための広報の強化。
 - ① 国際会議プロシーディングスの掲載文献書誌事項のデータベース化、データベースの構築および平成4年度収集国際会議プロシーディングス掲載文献書誌事項のインプットならびにパソコン通信への対応。
 - ② 所蔵目録の作成と「鉄と鋼」誌への掲載。
- 3) デPOSITライブラリー対象誌ならびに金属および周辺領域の逐次刊行物の所蔵目録の作成および「鉄と鋼」誌への掲載。
- 4) デPOSITライブラリー対象誌の完備
- 5) 学術振興会製鋼第19委員会および製鉄第54委員会の資料の保管。
- 6) プロシーディングスの収集増とデPOSITライブラリーの整備のため、図書・資料室に雑誌架と書架の増設。
- 7) 平成4年4月1日より、非会員への複写料金の改訂。

6.2 情報業務事業

抄録 5,300件

校閲 7,000件

6.3 著作物等の分譲

刊行物分譲の合理化が軌道に乗ったので、従来から

有料頒布していたネクタイピン等の協会ロゴ製品を拡充し、刊行物と同じ分譲ルートに乗せると共に複写サービス、資料頒布との統合

7. 鉄鋼標準化センター事業

標準化をめぐる国内外の急激な環境変化に特に対応するため、標準室およびISO事務局を統合して、鉄鋼標準化センターを発足させ、標準化事業、鉄鋼標準試料事業およびISO幹事国事業の一元的管理推進をはかることとし、審議機関として鉄鋼標準化センター運営委員会標準化委員会および鉄鋼標準試料委員会を設置する。

平成4年度は、この新体制を早急に軌道にのせ、一元化の効果を発揮

7.1 標準化事業

- 1) ISO/JISの整合の為のJISの見直しの実務がH4年より開始され、又ISO国際会議開催を含めたISO活動も以下の通りにはほぼH3年度並と推定される。
- 2) JIS原案審議関係

圧力容器用調質型ニッケルクロムモリブデン鋼鋼板原案審議、配管用ステンレス鋼鋼管など7規格の改正原案審議及びびみぎ棒鋼改正原案審議等の他ISO/JIS整合性のためのPC棒鋼他47件の見直し業務が開始される予定である。
- 3) ISO国際会議（出席予定）

ISO/TC17（鋼）、TC5（鋼管）	12
ISO/TC67（石油及び天然ガス工業用材料及び装置）（神戸会議2を含む）	6
ISO/TC164（金属の機械試験）	4

7.2 ISO幹事国事業

第77回通常総会報告

7. 2. 1 会議

1) 当事務局が主催する国際会議

会 議	開催月	場 所
TC17/SC 1	6 月	ロンドン
TC67/SC 5	9 月	日 本

2) 他SC幹事国が主催する国際会議

会 議	開催月	場 所
TC17/SC 4	7月又は9月	未定
SC 7	9月又は10月	パ リ
SC 9	5 月	未定
SC16	6 月	未定
SC19	9 月	ミ ラ ノ
SC20	4 月	パ リ
TC67総会	9 月	ロンドン
TC67/SC 5 /WG 1	6 月	タ ル サ
TC67/SC 5 /WG 1	9 月	日 本

7. 2. 2 TC17幹事国業務

H 4 年度の重要事項は、昨年行われた第17回TC17総会の成果の実施及びH 5 年度開催の第 8 回TC17/EC会議の準備。

1) ISO規格の成立目標

審議中の案件98件のうち、4 年度中に 5 件のISO規格、1 件のテクニカルレポートが成立予定。

2) 第17回TC17総会の決定事項のフォローアップ

- ① SC17 (線材及び線) の幹事国を新たに引き受けた中国のバックアップ。
- ② TC17Strategic Policy Statementに関し、各 SC secretariat と将来の作業項目についての詳細検討。
- ③ 滞留作業項目の活性化、電子的手段の活用、中央事務局スタッフのサービス利用による規格原案の早期作成等の促進。
- ④ ISO9000 シリーズのTC17用補足資料 (補完版) の必要性及びタイミング等の継続検討。
- ⑤ Vienna agreement に基づく ECISS (欧州鉄鋼標準化委員会) との間の会議の相互出席・規格原案の相互利用等について具体化。

3) 第 8 回TC17/EC会議の準備

1993年 5 月または 6 月のパリ開催に向けての準備。
現状予想される議題

- (a) 規格作成のスピードアップ
- (b) Strategic Policy Statement の見直し
- (c) TC17総会とTC17/EC会議の役割分担と開催時期の見直し

具体的な議題については欧州、米国主要メンバーとの事前討議の上、決定。

7. 2. 3 ISO/TC17/SC 1 幹事国業務

1) 1992年 6 月のロンドン第14回国際会議にて、現在進行中の下記11件のCDに対するSC 1 全体による審議。

うち 7 件については共同試験の結果も良好で、完了の見込み。

- CD 10278 マンガンプラズマ分光法完了見込み
 - CD 10697-2 全カルシウム原子吸光法完了見込み
 - CD 10719 遊離炭素-燃焼赤外線吸収法
 - CD 10699 アルミニウム-原子吸光法
 - CD 10700 マンガン-原子吸光法 完了見込み
 - CD 10701 硫黄-吸光光度法 完了見込み
 - CD 10720 窒素-融解導電率法
 - CD 439 けい素-重量法 完了見込み
 - CD 11652 コバルト-原子吸光法 完了見込み
 - CD 10653 コバルト-電位差滴定法
 - CD 4941 モリブデン-吸光光度法 完了見込み
- 次期新作業項目として提案されている下記の案件のうち上記完了案件と同数又はそれ以上の新規案件を取り込む予定。

マンガン-吸光光度法

砒素-原子吸光法

極低ほう素定量法

極低炭素定量法

ニオブ等-プラズマ分光法

銅-吸光光度法

硫黄-燃焼赤外線吸収法

酸素定量法

カドニウム定量法

機器分析法 (発光分析、蛍光X線)

2) 1992年度発行予定のISO規格

ISO 10714 りん-吸光光度法

3) 1992年度登録予定のDIS

CD 10698 アンチモン-原子吸光法

4) 他TC/SCとの共同作業による規格作成作業の継続

(1) ISO377- 2 (分析試料の採取と調製) の改訂:

ISO/TC17/SC20

(2) プラズマ分光法、原子吸光法の取扱指針の規格化:

ISO/TC47/SC1、ISO/TC102/SC2、

ISO/TC155/SC3&SC4

5) 規格作成の能率向上

SC1 meeting 直後に Editing committee meeting を開催し、中央事務局編集委員とSC1編集員、コンピナーとの編集に関する意思疎通を行い CD 最終版作成の能率向上を図る。

6) ECISS (欧州鉄鋼標準化委員会) /TC20 (分析) とのliaison 強化

「ウィーン合意」に基づき、上記機関と連絡を密にし、特にEC統合に伴う動きに注意。

7) ISOとJISの整合化

(1) ISOとJISの平行審議が出来るようなテーマの整理・選択。

- (2) JIS案をISO原案として積極的に提言し、コンピーナー引受数をできるかぎり増加。
- 8) WG活動(コンピーナー)支援
海外のコンピーナーとの接触を密にし、その活動を積極的に支援。
- 9) 第15回SC1国際会議準備会の開催
1994年に開催予定の国際会議に向けて、SC1諮問部会の開催されない月に準備会を開催していく。
7. 2. 4 ISO/TC67/SC5 幹事国業務
平成3年度は前年度に決定したTC67/SC5業務の基本方針に基づき、WG1でのAPISpec5CT及び5DのISO規格化作業の円滑な推進を支援すると共に、その成果を9月開催予定の第2回TC67/SC5会議にて討議し、さらにAPI規格のISO規格化の今後の進め方を決めることを計画している。
- 1) TC67/SC5/WG1の活動
- (1) APISpec5 CTのISO規格化
1992年2月及び6月開催予定のWG1会議で原案の審議を完了。
- (2) APISpec5 DのISO規格化
1992年9月開催予定のWG1会議で原案の第1回審議。TC67/SC5幹事国としてWG1会議の円滑な運営を支援。
- 2) 第2回TC67/SC5会議の開催
日本において1992年9月に開催予定。下記主要議題討議を計画している。
- (1) WG1作成の規格原案の審議
APISpec5 CTのDIS化。
- (2) API規格との整合性維持のためのメンテナンスシステムの確立
- (3) TC67/SC5に割当てられた他のAPI documentsのISO化の方針の討議
- 3) TC67/SC5 Pメンバーの増強
主として欧州以外でのPメンバーの増強につき努力。
7. 3 鉄鋼標準試料事業
7. 3. 1 新製品の製造頒布
- (1) 超高純度鉄(不純分20ppm以下)試料
- (2) 極微量元素含有鋼シリーズ機器分析用試料(8試料/1組)
- (3) 極微量炭素含有鋼シリーズ科学分析用試料(3試料/1組)
7. 3. 2 委員会内規類の整備
- (1) 委員会内規の改定
- (2) ガイド類の追加及び改定(特に分析所認定制度の追加)
7. 3. 3. 鉄鋼標準試料事業の一部の外部委託の推進
- (1) 分析データの収集、統計解析及び成績印刷業務の委託
- (2) 頒布に関する受付、発送指示及び代金回収業務の委託
7. 3. 4 その他

- (1) 分析所認定に関する講習会の実施
- (2) 鉄鋼標準試料の製造・頒布に関する国際化への提案
- (3) 外国製鉄標準試料の認証値決定分析への参加

IV. 特別会計による事業

1. 特別資金会計による事業

1. 1 表彰

渡辺義介賞、西山賞、服部賞、香村賞、渡辺二郎賞、野呂賞、渡辺義介記念賞、西山記念賞、日本鉄鋼協会・日本金属学会奨学賞の授与 1回 4月
浅田賞、三島賞、林賞、山岡賞、俵論文賞、澤村論文賞、里見賞(外部資金の受入れによる)の授与 1回 10月

1. 2 湯川メモリアルレクチャー並びに湯川記念講演会の開催 随時

1. 3 石原・浅田研究助成金の交付 1回

1. 4 日向方斎学術振興交付金 2回

1. 5 浅田記念文庫の寄贈 3回

1. 6 戦後技術史調査事業

調査結果の報告書の出版。英訳版の出版企画。

1. 7 鉄鋼研究振興助成金

第1回の助成として総額3700万円を20人を交付する。H5年度の第2回助成金交付のため助成テーマの公募(鉄と鋼5月号～7月号にて会告)を行う。

2. その他補助金等会計による事業

2. 1 鉄鋼二次製品生産設備実態調査

本会が二次製品関係団体の協力により日本小型自動車等機械工業振興資金の補助金の交付を受けて、4年毎に実施するもの。調査対象品種は下記のとおり。

鉄線、めっき鉄線、硬鋼線、特殊鋼線、めっき鋼線、くぎ、特殊くぎ、有刺鉄線、金網、ワイヤーロープおよびより線、被覆アーク溶接棒、自動溶接用ワイヤおよびフラックス、磨棒鋼、磨帯鋼、亜鉛めっき鋼板、ドラム缶、更生ドラム缶、食缶、18リットル缶、一般缶、金属印刷、高压容器、溶接高压容器、ショベル・スコップ、ダクトイル鉄管、ダクトイル異形管

第77回通常総会報告

2. 2 日本压力容器研究会議

委員会・部会名	開催回数	開催月(場所)〈予定〉	研究テーマ・その他
日本压力容器研究会議 運 営 委 員 会	3	3月、6月、12月	企画、運営、調整
压力容器用鋼材専門委員会	4	未定	(次期研究テーマ検討中)
水素脆化専門委員会	4	未定	C-1/2Mo鋼水素侵食材の材料評価 他1 テーマ
非破壊試験専門委員会	4	未定	集束探触子を用いた新探傷手法の開発
MPC委員連絡会※(仮称)	2	未定	MPC関連情報交換

※運営委員会の議決により米国MPC (Materials Properties Council) に対応する組織としてMPC委員連絡会(仮称)を設置。

V. 支 部

1. 事 業

1. 1 北海道支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H4. 6. 18
- (2) 評議員会 2回開催。H4. 6.、H4. 11.
- (3) 理事会 2回開催。H4. 5.、H4. 10.

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
素材製造技術研究会	日本金属学会道支部	H4. 7.	札幌	特別講演 一般講演
〃	〃	H4. 12.	室蘭	特別講演 一般講演
鋼材新素材研究会	〃	H4. 7.	室蘭	特別講演 一般講演
〃	〃	H4. 12.	室蘭	特別講演 一般講演

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会道支部	H4. 6. 18	北海道大学	未定	
	〃	H4. 11.	室蘭工業大学	未定	
春季講演大会	〃	H4. 6. 18-19	北海道大学	一般講演	
秋季講演大会	〃	H4. 11.	室蘭工業大学	一般講演	

1. 2 東北支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H5. 2.
 (2) 評議員会 H5. 2.
 (3) 理事会 H4. 5.

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
第4回難処理希少資源研究センター研究懇談会	日本金属学会東北支部 資源・素材学会東北支部 助選鋁製錬研究会	H4. 10.	東北大学選研	未定
第28回鉄鋼製錬研究懇談会	資源・素材学会東北支部	H4. 11.	東北大学選研	未定
第13回日本熱物性シンポジウム	日本熱物性学会	H4. 9. 28~29	秋田市文化会館	熱物性
第6回プロセス工学会		H4. 12.	東北大学青葉記念会館	

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
第29回金属関係六学協会東北支部連合シンポジウム	日本金属学会、溶接学会、日本鋳物協会、資源・素材学会各東北支部、軽金属学会東北センター	H4. 11.	東北大学工学部 青葉記念会館	未定	約100名
第1回地区講演会	日本金属学会東北支部	H4. 11.	岩手大学工学部	未定	約80名
第2回地区講演会	"	H4. 12.	秋田大学鋁山学部	未定	約80名
湯川記念講演会 特別講演会		H4. 5.	東北大学工学部	未定 数件程度を予定	約100名

1. 3 北陸支部

1) 運営関係

- (1) 総会 2回開催。H4. 6. 1、12. 10
 (2) 評議員会
 (3) 理事会 2回開催。H4. 6. 1、12. 10

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
金沢・富山・福井地区研究会		2回		
新潟・長岡地区研究会		2回		

第77回通常総会報告

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会分科会	H4.6.1	信州大学	松井正顕 風間昭典	50~60人
(本多記念講演会) 支部連合講演大会	(金属支部主催) 金属学会北陸支部	(H4.12.10) H4.12.10	(福井工大) 福井工大	(未定)	(50~60人)

1.4 東海支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H4.3.6
- (2) 評議員会 なし
- (3) 理事会 6回開催。H4.3.6、5.、7.、8.、10.、H5.1.

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
若手冶金 エンジニア研究会		3回		
若手材料研究会		3回		

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
講 習 会 特 別 講 演 会		H4.12. H4.6.、8.、 H5.1.			
湯川記念講演会 (本多記念講演会) 金属材料談話会 材料プロセッシング 談 話 会		H4.3.6.9.、 H5.3. (H4.7.)			

- (3) 見学会 H4.10.
- (4) 育成事業 学生による材料フォーラム H4.11.
- (5) その他事業 92秋季講演大会実行委員会 適宜

1.5 関西支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H4. 3.
- (2) 評議員会 2回開催。H4. 3.、9.
- (3) 理事会 5回開催。H4. 3.、7.、9.、11.、H5. 2.
- (4) 各種委員会
 - ① 企画小委員会 2回
 - ② 学術運営小委員会 2回
 - ③ 財務広報小委員会 2回
 - ④ 材料評価セミナー運営委員会 3回

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
材料物性工学談話会		4回		
鉄鋼プロセス研究会		4回		
材料開発研究会		4回		
材料化学研究会		3回		
関西分析研究会		3回		

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
第1回湯川記念 講 演 会 (本多記念講演会)		H4. 3. (H4. 7.)			
第2回湯川記念 講 演 会		H4. 9.			
関 西 支 部 第4回講演会		H4. 11.			
材料評価セミナー ①化学的評価 ②X線回折 ③組織観察 ④検 討 中					

(3) 見学会 2回

(4) その他事業：懇親会 2回

第77回通常総会報告

1.6 中国四国支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H4.3.17
- (2) 評議員会 H4.6.
- (3) 理事会 2回開催。H4.7.、H5.2.

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
金属物性研究会		3回		
材質制御技術研究会		3回		

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会中国四国支部	H4.4.17	広島弥生会館	中村 崇 天野明弘	
” ” 講演大会	” ” 日本金属学会中国四国支部	H4.7. ”	宇部市 宇部市	未定 発表約30件	

(3) 見学会 超高温技術センター

1.7 九州支部

1) 運営関係

- (1) 総会 H4.6.5
- (2) 評議員会 H4.6.5
- (3) 理事会 4回開催。H4.6.5、8.28、H5.1.22(常任理事会)、2.19

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 な 内 容
材料科学談話会		7~9回/年		
材料工学談話会		5~7回/年		
材料プロセス談話会		4~6回/年		

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講 師 等	参加者数
77回 学術講演会	日本金属学会九州支部	H3.6.5	熊本大学		
78回 講演討論会	”	9.25	長崎大学	未定	
79回 講演討論会	”	12.4	住友金属小倉	”	
44回	”	9.25	長崎大学	”	
湯川記念講演会					
45回	”	12.4	住友金属小倉	”	
湯川記念講演会					

2. 収支予算

収入の部

単位：(円)

科 目	合 計	北 道 道	東 北	北 陸	東 海	関 西	中国四国	九 州
本 部 補 助 金								
(基本補助金)	1,780,000	200,000	200,000	200,000	240,000	400,000	300,000	240,000
(会費補助金)	3,629,000	151,000	164,000	92,000	510,000	1,400,000	855,000	457,000
(研究補助金)	750,000	100,000	100,000	0	150,000	250,000	0	150,000
(湯川補助金)	1,850,000	200,000	300,000	300,000	250,000	300,000	200,000	300,000
会 費	995,000	0	0	0	400,000	0	595,000	0
参 加 費	1,265,000	45,000	0	0	1,020,000	200,000	0	0
他 団 体 分 担 金	665,000	15,000	150,000	0	0	0	0	500,000
利 子 収 入	319,604	50,000	2,000	5,000	0	200,000	0	62,604
雑 収 入	24,000	0	0	0	24,000	0	0	0
当期収入合計(A)	11,277,604	761,000	916,000	597,000	2,594,000	2,750,000	1,950,000	1,709,604
前期繰越収支差額(B)	13,180,904	1,136,269	422,622	331,802	208,806	4,139,166	5,468,632	1,473,607
収入合計(A+B)	24,458,508	1,897,269	1,338,622	928,802	2,802,806	6,889,166	7,418,632	3,183,211

支出の部

事 業 費								
研 究 会 費	1,530,000	300,000	100,000	40,000	120,000	630,000	100,000	240,000
講 演 会 ・ 講 習 会 費 等	3,456,000	180,000	310,000	250,000	1,650,000	0	245,000	821,000
見 学 会 費	120,000	0	0	0	120,000	0	0	0
湯 川 記 念 講 演 会 費	1,870,000	200,000	300,000	300,000	250,000	300,000	200,000	320,000
そ の 他 事 業 費	307,220	0	47,220	0	60,000	200,000	0	0
事 業 費 合 計 (C)	7,283,220	680,000	757,220	590,000	2,200,000	1,130,000	545,000	1,381,000
管 理 費								
会 議 費	1,077,536	100,000	37,536	100,000	120,000	330,000	145,000	245,000
旅 費 交 通 費	614,040	6,500	64,540	150,000	18,000	180,000	195,000	0
事 務 費	1,842,000	0	10,000	0	240,000	700,000	692,000	200,000
通 信 費	405,319	20,000	25,319	20,000	120,000	110,000	80,000	30,000
印 刷 費	279,722	30,000	7,722	20,000	12,000	120,000	90,000	0
雑 費	233,500	13,500	10,000	10,000	60,000	70,000	50,000	20,000
管 理 費 合 計 (D)	4,452,117	170,000	155,117	300,000	570,000	1,510,000	1,252,000	495,000
予 備 費 (E)	1,965,162	1,047,269	426,285	38,802	32,806	300,000	100,000	20,000
支出合計(C+D+E)	13,700,499	1,897,269	1,338,622	928,802	2,802,806	2,940,000	1,897,000	1,896,000
次期繰越収支差額	10,758,009	0	0	0	0	3,949,166	5,521,632	1,287,211

平成4年度(自平成4年3月1日 至 平成5年2月28日)収支予算総括表

(単位 円)

費 目	合 計 I + II + III	一般会計 I	別 途 資 金 会 計			補助金等会計 III
			特別資金会計 (ア)	積立金等会計 (イ)	小 計 (ア+イ) II	
I 収 入 の 部						
会 費 収 入	665,197,000	665,197,000	0	0	0	
分 担 金 収 入	8,385,000	0	0	0	0	8,385,000
事 業 収 入	392,737,000	392,737,000	0	0	0	0
補 助 金 収 入	3,973,000	0	0	0	0	3,973,000
受 託 金 収 入	2,691,798	0	0	0	0	2,691,798
寄 付 金 収 入	0	0	0	0	0	0
加 入 者 負 担 金 収 入	2,380,000	0	0	2,380,000	2,380,000	0
利 子 ・ 雑 収 入	92,800,000	10,400,000	63,670,000	18,330,000	82,000,000	400,000
繰 入 金 収 入	27,100,000	0	0	26,300,000	26,300,000	800,000
当 期 収 入 合 計(A)	1,195,263,798	1,068,334,000	63,670,000	47,010,000	110,680,000	16,249,798
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,479,637,021	66,267,610	1,053,222,982	343,303,476	1,396,526,458	16,842,953
収 入 合 計(B)	2,674,900,819	1,134,601,610	1,116,892,982	390,313,476	1,507,206,458	33,092,751
II 支 出 の 部						
事 業 費	1,018,610,751	928,418,000	57,100,000	0	57,100,000	33,092,751
管 理 費	207,747,000	185,747,000	0	22,000,000	22,000,000	0
固 定 資 産 取 得 支 出	0	0	0	0	0	0
繰 出 金 支 出	6,710,000	0	6,710,000	0	6,710,000	0
子 備 費	20,436,610	20,436,610	0	0	0	0
当 期 支 出 合 計(C)	1,253,504,361	1,134,601,610	63,810,000	22,000,000	85,810,000	33,092,751
当 期 収 支 差 額(A-C)	-58,240,563	-66,267,610	-140,000	25,010,000	24,870,000	-16,842,953
次 期 繰 越 収 支 差 額(B-C)	1,421,396,458	0	1,053,082,982	368,313,476	1,421,396,458	0

一般会計収支予算内訳表

支出の部

収入の部

(単位：円)

事業別	費目	金額	事業別	費目	金額		
編集・業務 事業費	境界領域委員会費	2,000,000	編集・業務 事業収入	和文誌分譲収入	16,000,000		
	編集委員会費	2,705,000		広告分譲収入	17,400,000		
	和文会誌費	104,858,000		その他事業収入	1,200,000		
	欧文会誌費	45,942,000		計	34,600,000		
	教材とプロセス費	20,330,000		欧文誌分譲収入	15,300,000		
	その他刊行会費	2,470,000		広告収入	500,000		
	講演大会費	21,525,000		補助金収入	9,100,000		
	計	197,830,000		その他事業収入	300,000		
	育成委員会費	2,630,000		計	25,200,000		
	西山技術講座費	12,180,000		材料とプロセス分譲収入	35,000,000		
	白石記念講座費	4,330,000		広告収入	2,500,000		
	鋼工学ミナ費	21,260,000		計	37,500,000		
	学生見学会費	19,938,000		その他刊行物分譲収入	1,400,000		
	計	60,338,000		計	1,400,000		
	役員管理費	11,142,000		講演大会参加費収入	4,700,000		
	支部関係費	6,928,000		広告収入	250,000		
	管 理 費	69,165,000		計	4,950,000		
		12,747,000		西山テキスト分譲収入	8,000,000		
		広告収入	300,000				
		西山記念資金繰入	3,880,000				
		計	12,180,000				
		白石テキスト分譲収入	1,300,000				
		広告収入	200,000				
		白石記念資金繰入	2,830,000				
		計	4,330,000				
		鉄鋼工学セミナー参加費収入	10,800,000				
		その他事業収入	11,190,000				
		計	21,990,000				
		学生見学会分損金	15,975,000				
		小計	158,125,000				
	小計	360,150,000					
国際事業費	国際交流委員会費	327,000	国際事業 収入	スラグICテキスト分譲収入	900,000		
	スラグ国際会議費(92)	17,187,000		スラグ国際会議参加費収入	11,840,000		
	コンピュータ国際会議費(93)	972,000		その他事業収入	1,950,000		
	日ノルディックシンポジウム費(92)	4,915,000		補助金収入	3,500,000		
	日中シンポジウム費(92)	8,090,000		計	18,190,000		
	日独シンポジウム費(93)	317,000		日中シンボ参加費収入	750,000		
	集会所事業準備費	6,345,000		小計	18,940,000		
	案件管理費	45,107,000					
	管 理 費	6,136,000					
	小計	89,396,000					
技術調査 研究事業費	研究委員会費	5,018,000	技術調査 研究事業 収入	鉄鋼基礎共同研究会分損金	950,000		
	共同研究会費	36,228,000		小計	950,000		
	特定基礎研究会費	59,647,000					
	基礎研究会費	10,482,000					
	鉄鋼基礎共同研究会費	14,834,000					
	国際鉄鋼技術委員会費	1,190,000					
	管 理 費	27,390,000					
小計	170,112,000						
鉄鋼技術情報 事業費	鉄鋼技術情報センター運営委員会費	928,000	鉄鋼技術 情報事業 収入	図書館サービス収入	6,127,000		
	図書・資料業務費	19,674,000		頒布収入	10,300,000		
	情報業務費	5,014,000		情報業務収入	16,075,000		
	管 理 費	50,100,000		小計	32,502,000		
小計	117,719,000						
鉄鋼標準化 センター 事業費	鉄鋼標準化センター運営委員会費	899,000	鉄鋼標準化 センター 事業収入 及び分損金	鉄鋼標準試料収入	62,900,000		
	標準化委員会費	8,962,000		補助金収入	2,700,000		
	鉄鋼標準試料費	48,204,000		標準化センター分損金	116,620,000		
	TC17業務費	15,075,000		小計	182,220,000		
	TC17/SC1業務費	11,205,000					
	TC67/SC5業務費	7,510,000					
	TC67/SC5国際会議費	4,200,000					
	管 理 費	58,512,000					
	小計	36,994,000					
小計	191,561,000						
事業費合計			事業収入合計				
		928,418,000			392,737,000		
管理費	一般システム管理費	104,062,000	会費等収入	正・学生会員会費	95,225,000		
	一般システム管理費	46,225,000		外国会員会費	8,612,000		
	諸積立築金	25,460,000		維持会員会費	561,360,000		
	名簿構築費	10,000,000		利子・雑収入	10,400,000		
管理費合計	185,747,000		会費等収入合計	675,597,000			
予備費	20,436,610		当期収入合計	1,068,334,000			
			前期繰越収支差額	※66,267,610			
合 計	1,134,601,610		合 計	1,134,601,610			

*一般会計分 54,340,492 I S O幹事国業務会計分 11,927,118

別途資金会計収支予算内訳表・補助金等事業会計収支予算内訳表

(単位：円)

費目	特別資金									
	長並及びに 表業資に金	渡記 辺念資	義介 資金	西山 太郎 記念資	湯川 正金 記念資	浅田 長平 記念資	三島 徳金 記念資	林 達金 記念資	白石 元治 郎金 記念資	日向 方齊 学術 振興 資金
I 収入の部 会費の収入 分事業金の収入 補助金の収入 委託者の入金 寄附金の収入 加利の収入	3,460,000	770,000		2,800,000	2,830,000	3,500,000	430,000	340,000	2,530,000	3,000,000
当期繰上収入	3,460,000	770,000		2,800,000	2,830,000	3,500,000	430,000	340,000	2,530,000	3,000,000
前期繰下収入	71,140,741	15,257,869		50,850,527	52,251,723	50,150,793	8,567,765	6,615,693	57,393,628	57,023,491
当期繰上収入合計	74,600,741	16,027,869		53,650,527	55,081,723	53,650,793	8,997,765	6,955,693	59,923,628	60,023,491
支出の部				280,000		1,100,000	525,000		315,000	
事業費				280,000					315,000	
技術奨励費					2,000,000					
講演会費					2,100,000					
文庫費	500,000									
助成費										
振興費										5,000,000
研究費										
出版費										
退職年金									2,830,000	
年時支										
職取支										
備支				3,880,000						
当期繰上支出	3,000,000	280,000		4,160,000	4,100,000	3,100,000	525,000	315,000	2,830,000	5,000,000
前期繰下支出	460,000	490,000		-1,360,000	-1,270,000	400,000	-95,000	25,000	-300,000	-2,000,000
当期繰上支出合計	71,600,741	15,747,869		49,490,527	50,981,723	50,550,793	8,472,765	6,640,693	57,093,628	55,023,491

費目	特別資金					基 本 金	退 積 金	積 立 金 等	生 立 積 金	會 館 積 立 金
	研究 振興 金	外 島 健 念 資 金	鉄 鋼 研 究 資 金	特 別 資 金 計	特 別 資 金 計					
I 収入の部 会費の収入 分事業金の収入 補助金の収入 委託者の入金 寄附金の収入 加利の収入				63,670,000	63,670,000	580,000		2,380,000		1,100,000
当期繰上収入				63,670,000	63,670,000	580,000		2,380,000		1,100,000
前期繰上収入	210,000	6,700,000	37,100,000	1,053,222,982	1,053,222,982	10,477,556		7,300,000		20,448,867
前期繰上収入合計	4,234,031	107,725,846	572,010,875	1,116,892,982	1,116,892,982	11,057,556		7,300,000		21,548,867
支出の部										
事業費										
技術奨励費				5,000,000	5,000,000					
講演会費				2,000,000	2,000,000					
文庫費				2,100,000	2,100,000					
助成費				1,000,000	1,000,000					
振興費				1,500,000	1,500,000					
研究費			37,000,000	42,000,000	42,000,000					
出版費				3,500,000	3,500,000					
退職年金		3,500,000						2,000,000		
年時支										
職取支										
備支										
当期繰上支出	0	3,500,000	37,000,000	63,810,000	63,810,000	0		2,000,000	0	0
前期繰下支出	210,000	3,200,000	100,000	-140,000	-140,000	580,000		4,800,000	1,800,000	1,100,000
当期繰上支出合計	4,444,031	110,925,846	572,110,875	1,053,082,982	1,053,082,982	11,057,556		6,800,000	35,747,857	21,548,867

費目	積立金等			別 途 資 金 計
	回 際 積 立 金	積 立 金 等 計	積 立 金 等 計	
I 収入の部 会費の収入 分事業金の収入 補助金の収入 委託者の入金 寄附金の収入 加利の収入				
当期繰上収入				
前期繰上収入	2,750,000	2,380,000	2,380,000	2,380,000
前期繰上収入合計	2,750,000	47,010,000	110,680,000	110,680,000
前期繰上収入合計	50,393,381	343,303,476	1,396,526,458	1,507,206,458
支出の部				
事業費				
技術奨励費			5,000,000	5,000,000
講演会費			2,000,000	2,000,000
文庫費			2,100,000	2,100,000
助成費			1,000,000	1,000,000
振興費			1,500,000	1,500,000
研究費			42,000,000	42,000,000
出版費			3,500,000	3,500,000
退職年金		20,000,000	20,000,000	20,000,000
年時支				
職取支		2,000,000	2,000,000	2,000,000
備支			6,710,000	6,710,000
当期繰上支出	0	22,000,000	85,810,000	85,810,000
前期繰下支出	2,750,000	25,010,000	24,870,000	24,870,000
当期繰上支出合計	53,143,381	368,313,476	1,421,396,458	1,421,396,458

費目	日 本 器 具 研 究 計 画 会 議	新 環 境 統 合 都 市 研 究 計 画 会 議	鉄 鋼 製 品 生 産 設 備 調 査 会 議	合 計	
				合 計	合 計
I 収入の部 会費の収入 分事業金の収入 補助金の収入 委託者の入金 寄附金の収入 加利の収入				5,210,000	3,175,000
当期繰上収入				5,210,000	3,175,000
前期繰上収入	400,000	2,691,798	800,000	2,691,798	3,973,000
前期繰上収入合計	400,000	2,691,798	800,000	2,691,798	3,973,000
当期繰上収入合計	5,610,000	2,691,798	7,948,000	16,842,953	16,842,953
当期繰上収入合計	16,842,953	2,691,798	7,948,000	22,452,953	33,092,751
支出の部					
事業費					
技術奨励費					
講演会費					
文庫費					
助成費					
振興費					
研究費					
出版費					
退職年金		2,691,798		2,691,798	2,691,798
年時支					
職取支					
備支					
当期繰上支出	0	2,691,798	7,948,000	2,691,798	7,948,000
前期繰下支出	2,750,000	25,010,000	24,870,000	-16,842,953	-16,842,953
当期繰上支出合計	53,143,381	368,313,476	1,421,396,458	0	0